

金沢工業大学 御中

平成28年度 授業調査 報告書

---

2017.10.2

有限会社 アイ・ポイント

## INDEX

<1>本調査の全体像	2
<2>基本的な分析	7
<3>学年別の分析	16
<4>学部・学科別の分析	22
<5>科目区分別の分析	32
<6>同一学生群の分析	38
<7>授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析	44
<8>全体のまとめ	49

## <1>本調査の全体像

## 1) 調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、KIT全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 平成17年度に質問項目を変更しており、今回が12年目となるため、12年間の時系列比較を行って学生の実態がどのように変わっているかを確かめている。また、今年度の後期から選択肢の一部を変更している。(調査開始は平成15年度)

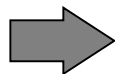
## 2) 調査の概略

今回の調査の概略は下記の通り。

項目	内容									
有効回答数	1年次生	29,255件	2年次生	33,002件	3年次生	25,262件	4年次生	1,540件	合計有効回答数	89,059件
年別回答数推移	年度	春学期(夏期特別含む)	秋学期	冬学期	全回答数	調査票				
	平成17年度	36,766	33,361	30,653	100,780	新調査票				
	平成18年度	36,518	33,803	31,734	102,055					
	平成19年度	35,723	33,919	32,275	101,917					
	平成20年度	37,693	34,103	32,698	104,494					
	年度	前期	後期	全回答数	調査票					
	平成21年度	42,446	43,962	86,408	新調査票					
	平成22年度	48,541	48,175	96,716						
	平成23年度	53,166	49,870	103,036						
	平成24年度	47,317	46,666	93,983						
	平成25年度	47,317	45,003	92,320						
	平成26年度	45,014	50,767	95,781						
	平成27年度	48,882	43,421	92,303						
	<b>平成28年度</b>	<b>47,946</b>	<b>41,113</b>	<b>89,059</b>						
対象科目	519科目									
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実施期間:各学期の各授業科目の最終日に実施した。</li> <li>● 実施方法:記名式。科目担当教員が授業アンケートを配付、受講学生が回収し大学に提出した。</li> <li>● 回答用紙はOMR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。</li> </ul>									
調査主体	学校法人 金沢工業大学									
集計	有限会社 アイ・ポイント									

## 3) 以前との設問の比較

	旧アンケート内容(平成15～16年度)
A	この科目は興味を持って受講することができましたか。
B	1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか。
C	授業が分からない時、オフィスアワー(OH)は有効でしたか。
D	授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか。
E	学習支援計画書の記載内容は理解できましたか。
F	教科書・指導書の内容は理解できましたか。
G	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。
H	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。
I	自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか。
J	授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか。
K	あなたはこの科目に満足していますか。

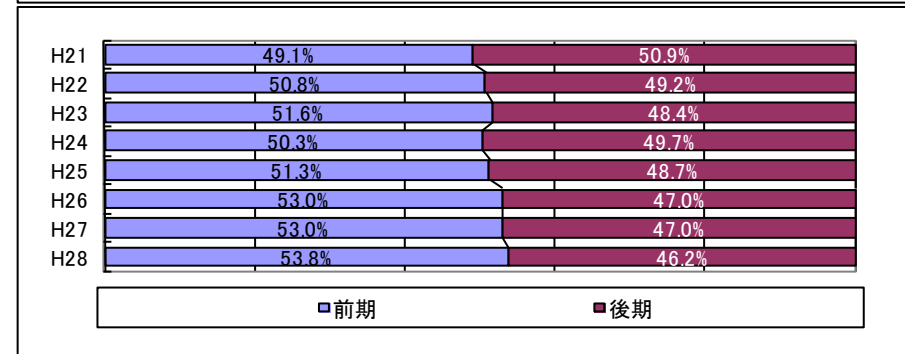
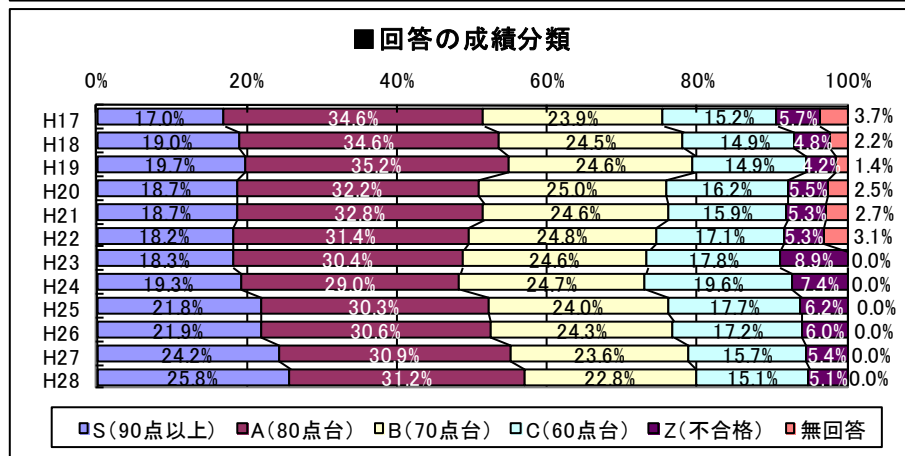
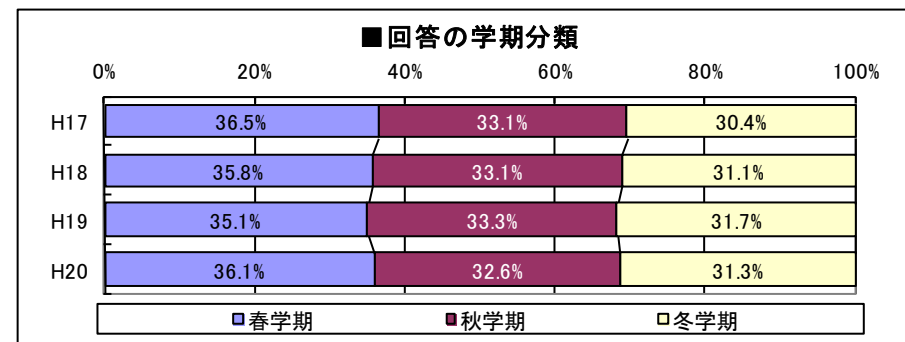
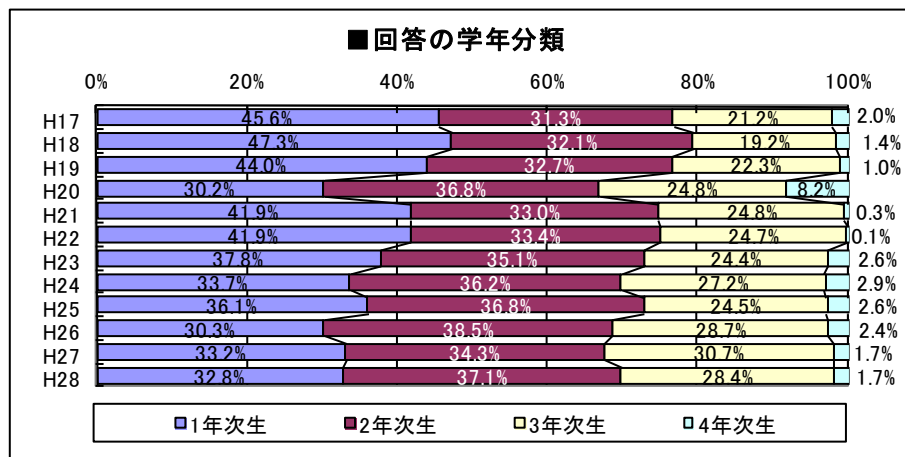


	新アンケート内容(平成17年度以降)	場面	内容
A	受講前、この科目に興味はありましたか。	受講前	学生の姿勢
B	最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか。	受講当初	授業支援
C	授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか。	受講中	学生の姿勢
D	1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。 ※平成27年度の後期より選択肢を変更している。	受講中	学生の姿勢
E	教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか。	受講中	授業支援
F	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。	受講中	授業支援
G	授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか。	受講中	授業内容
H	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。	受講中	授業内容
I	授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか。	受講中	授業支援
J	授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか。	受講中	教員の姿勢
K	授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか。	受講後	総合満足度

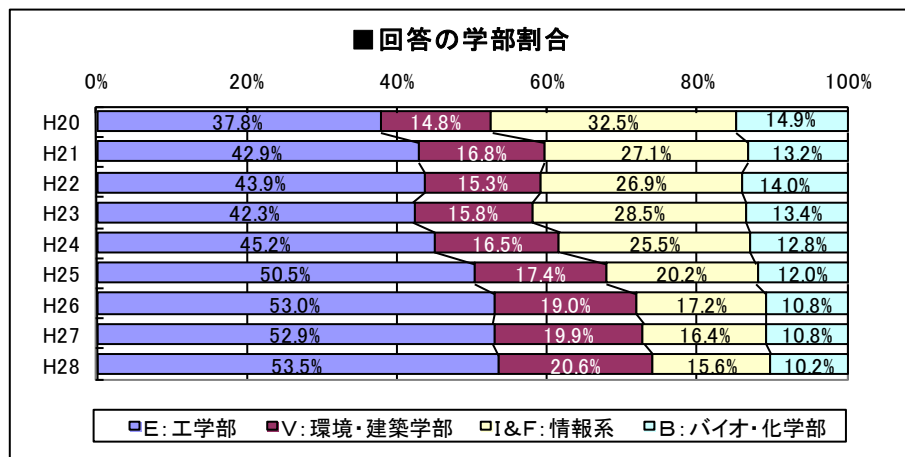
下記のような観点で以前の調査との比較を行った。

- 上記の通り平成17年度に質問の見直しを行っているため、一部の設問では以前との比較は行っていない。
- 新アンケートの「D」「F」「H」「K」の設問は平成14年度より内容が同じなので全ての期間に渡って比較ができるが、それら以外の設問は変更後のH17以降で比較を行った。
- 平成27年度の後期より、設問D(1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。)の選択肢を変更している。これまでは「1. 2時間以上、2. 1～2時間、3. 1時間程度、4. 30分程度、5. 学習は特にしなかった」の5択であったが、後期から「1. 3時間以上、2. 2～3時間、3. 1～2時間、4. 1時間程度、5. 30分程度、6. 学習は特にしなかった」の6択とした。これは2時間以上を選択する学生の実態を、より詳細に分析するための変更となる。

- 回答を学年で分類すると、「1年次生」が32.8%、「2年次生」が37.1%、「3年次生」が28.4%、「4年次生」は1.7%であり、前回とそれほど大きな差は見られなかった。
- 成績で分類すると、「S」は増加傾向が続いて過去最高の25.8%となり、「A」が31.2%、「B」が22.8%、「C」が15.1%、「Z」が5.1%となっていた。
- H21より前期と後期の2期制となったため、H21年以降で比較すると、「前期」の増加傾向が続いて53.8%となり、「後期」が46.2%となっていた。



- 学部別比較において、以前は「I:情報学部」があったため「I&F:情報系」としているが、現在の在學生は全て「F:情報フロンティア学部」のみになっている。
- 学部別に回答数の比較をすると、「E:工学部」が53.5%、「V:環境・建築学部」が20.6%、「I&F:情報系」が15.6%、「B:バイオ・化学部」が10.2%であった。前回と大きな差はないものの、「V:環境・建築学部」の増加傾向と「I&F:情報系」の減少傾向が続いていた。

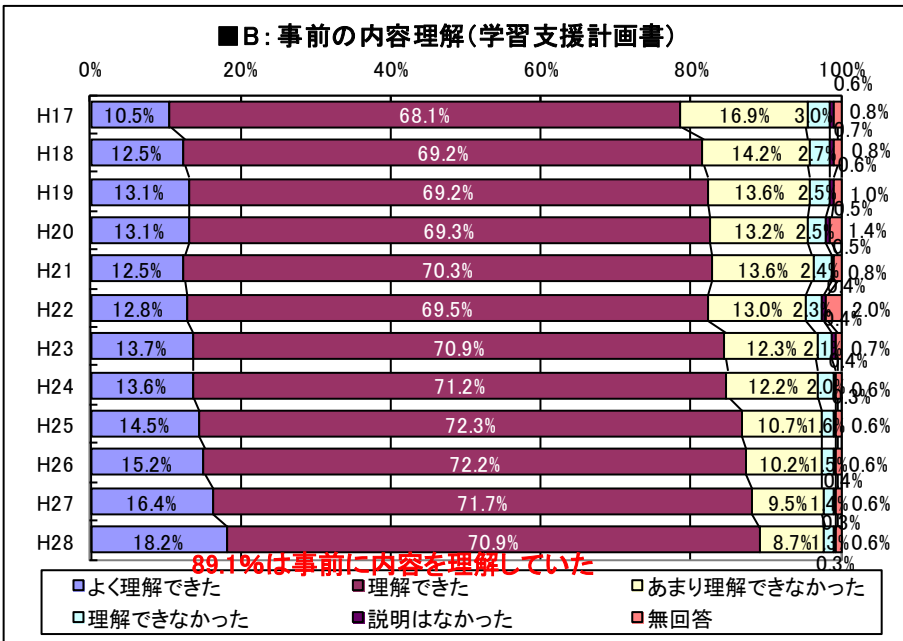
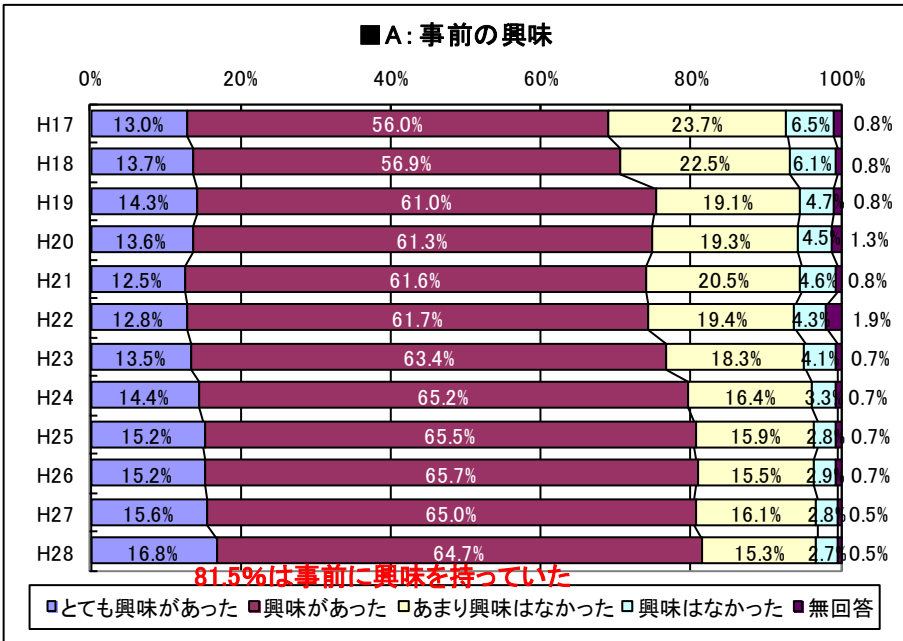


※H24年度以降は「I:情報学部」と「F:情報フロンティア学部」を一緒にして「情報系」として扱っている。

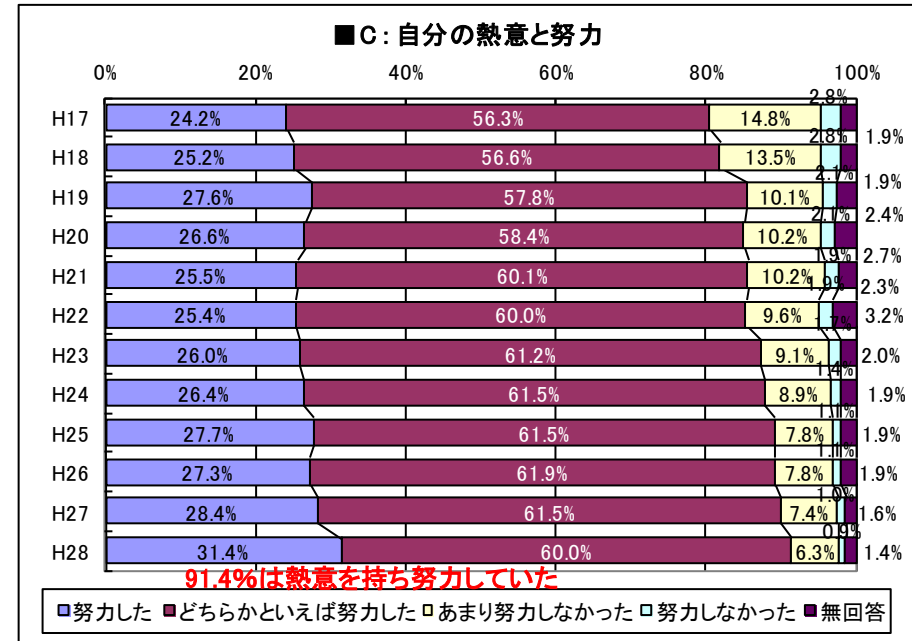
## <2> 基本的な分析



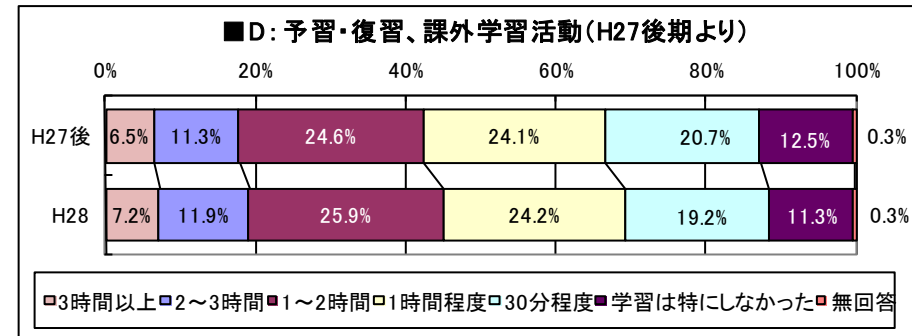
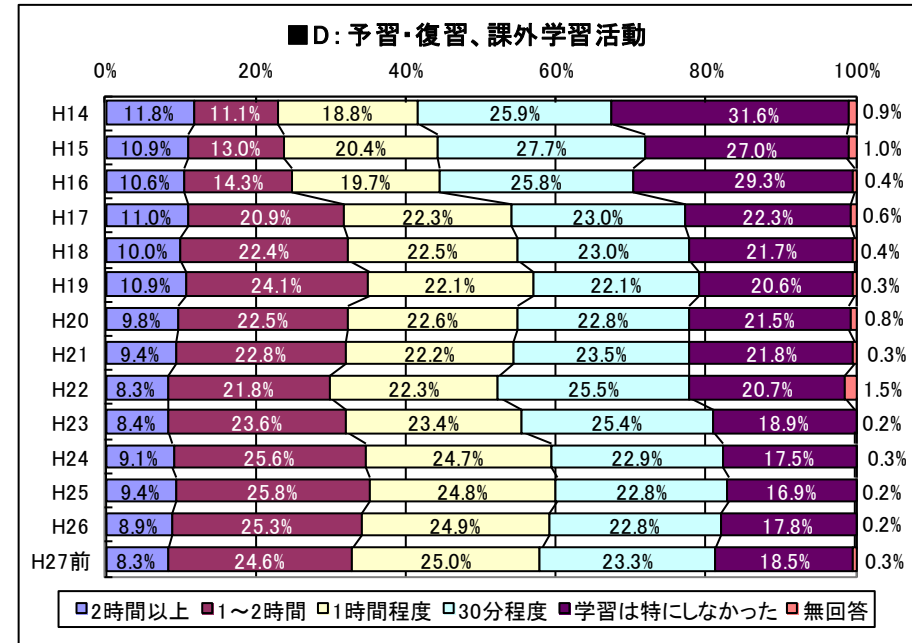
- 「A:事前の興味」に関しては、「とても興味があった」が16.8%で過去最高となり、「興味があった」の64.7%と合わせると81.5%が事前に授業に興味を持っていたと答えていた。
- 授業に興味を持っていたという回答はH23から横這い状態が続いているものの、わずかながら増加が続いており、今回は前回は0.9ポイント上回って、過去最高となっていた。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」に関しては、「よく理解できた」が過去最高の18.2%となり、「理解できた」の70.9%と合わせると89.1%が肯定的な意見となっていた。
- 以前と比較すると、肯定的な意見はH23以降、増加する傾向が続いており、今回も前回は1.0ポイント上回って過去最高となっていた。



- 「C:自分の熱意と努力」は「授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか?」という質問であるが、「努力した」が31.4%であり、前回は3.0ポイント上回って過去最高となった。そして、「どちらかといえば努力した」が60.0%であり、合計すると91.4%が肯定的な回答であった。
- 肯定的な意見は継続的に増加する傾向が続いており、今回は初めて90%を超えて過去最高となった。

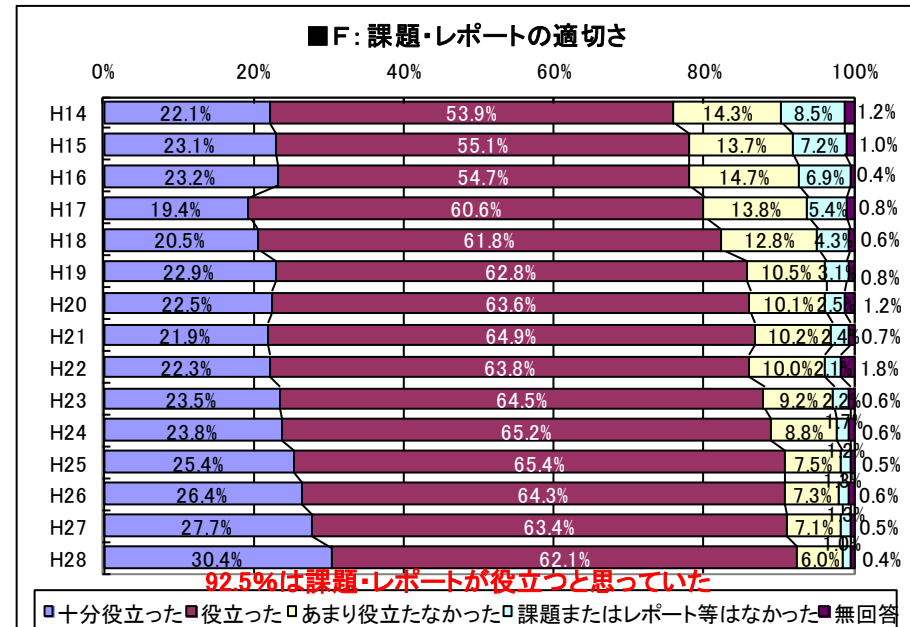
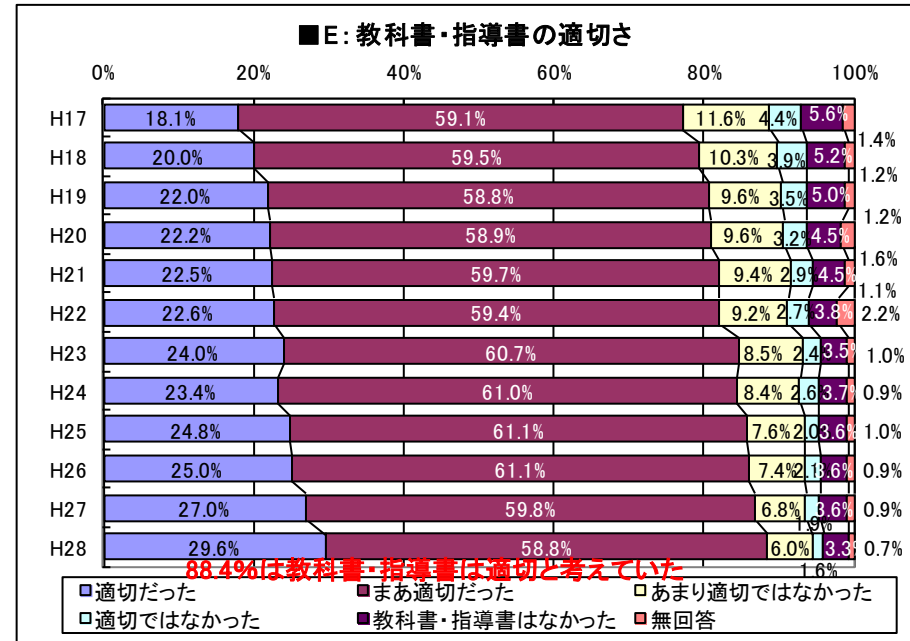


- 「D: 予習・復習、課外学習活動」は「1回の授業に対する予習・復習、課外学習時間はどの程度行いましたか?」という質問であるが、H27後期(H27後)より選択肢が変更になっているため、別のグラフで比較をしている。
- 今回の結果を見ると「3時間以上」は7.2%、「2～3時間」は11.9%、「1～2時間」が25.9%、「1時間程度」が24.2%であり、ここまでの選択肢はすべて前回は上回って、学習の時間は増加していると言える。
- そして、「30分程度」が19.2%、「学習は特にしなかった」が11.3%であり、この2つの割合は減少していた。
- 選択肢が異なるがH27の前期までと比較しても、「学習は特にしなかった」は過去最低であり、予習、復習、課外学習活動に積極的になっている様子が見えたと。



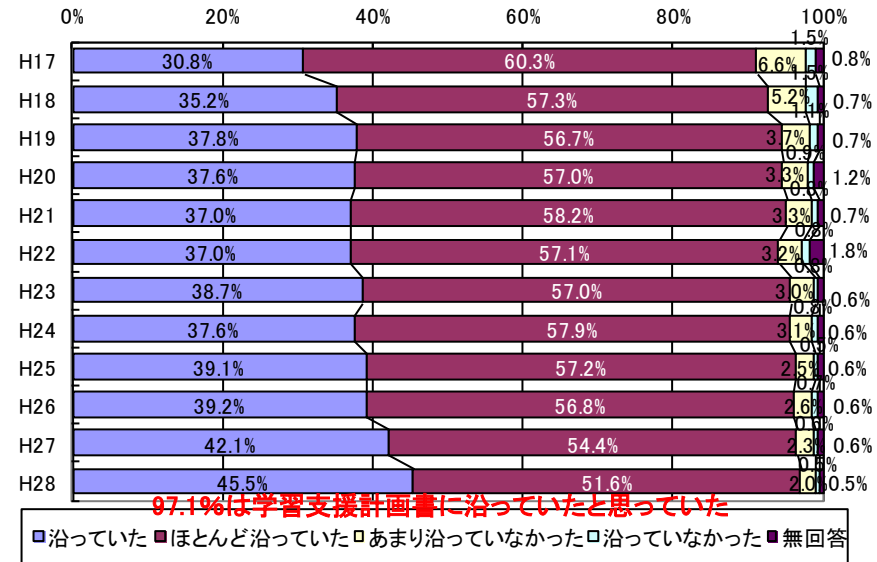
※H16までの設問文は「1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか」であった。  
 ※H27後期は選択肢は変わったが、設問文は変わっていない。

- 「E:教科書・指導書の適切さ」は「教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか?」という質問であるが、「適切だった」が29.6%であり、これも過去最高となった。そして、「まあ適切だった」が58.8%であり、合計すると88.4%が肯定的な意見であった。
- 以前との比較では、肯定的な意見は前回は1.6ポイント上回って過去最高となり、教科書・指導書の評価は継続的に向上が続いていた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は「課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるために役立ちましたか?」という質問であるが、「十分役立った」が30.4%であり、初めて3割を超えて過去最高となった。そして、「役立った」が62.1%で、合計すると92.5%が肯定的な意見であり、課題・レポートの評価も非常に高かった。
- 肯定的な意見はH25から9割を超えており、非常に評価が高い状態が続いている。今回は前回は1.4ポイント上回り、例外はあるものの評価は調査開始から向上する傾向が続いていた。

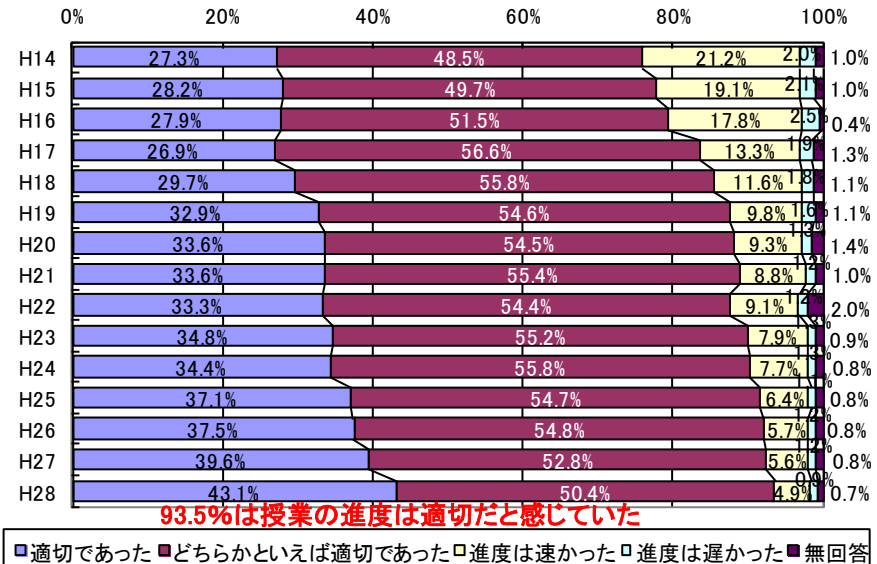


- 「G:学習支援計画書との一致」は「授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか?」という質問であるが、「沿っていた」が45.5%であり、前回は3.4ポイント上回って過去最高となった。そして、「ほとんど沿っていた」が51.6%で、合わせると97.1%と、ほとんどが肯定的な意見であり、非常に高い評価となっていた。
- H17の調査開始時点から肯定的な意見が9割を超えており、非常に高い評価であったが、今回も前回は0.6ポイント上回っており、高い評価が続いていた。
- 「H:授業の進度の適切さ」は「授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか?」という質問であるが、「適切であった」は43.1%であり、初めて4割を超えて過去最高となった。そして、「どちらかといえば適切であった」が50.4%で、合計すると93.5%が肯定的な意見であり、授業の進度に大きな問題はないようであった。
- 前回と比較すると、肯定的な意見は1.1ポイント増加しており、高い評価が続いていた。

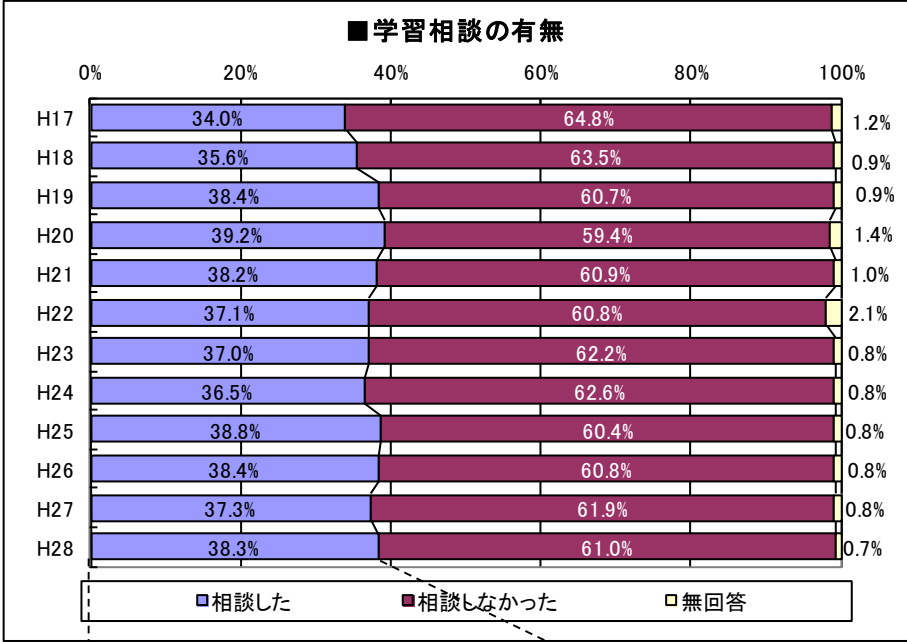
■ G: 学習支援計画書との一致



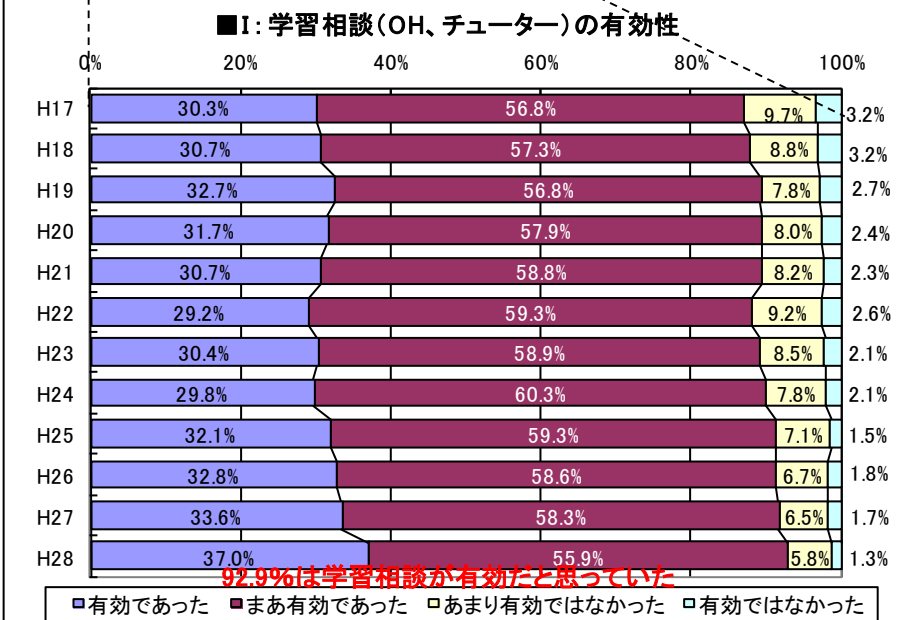
■ H: 授業の進度の適切さ



- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」は「授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか?」という質問であるが、まず、「学習相談の有無」だけを見ると、「相談した」が38.3%、「相談しなかった」が61.0%で、継続的に横這い状態が続いており、大きな変化は見られなかった。
- 「相談した」という学生に「学習相談の有効性」の評価を聞いたところ、「有効であった」が37.0%で過去最高となっており、「まあ有効であった」の55.9%と合わせると、92.9%が肯定的な意見であり、学習相談の評価は非常に高かった。
- 前回と比べると学習相談が有効であるという意見は1.0ポイント増加しており、H22あたりから継続的に評価が上がる傾向が続いていた。



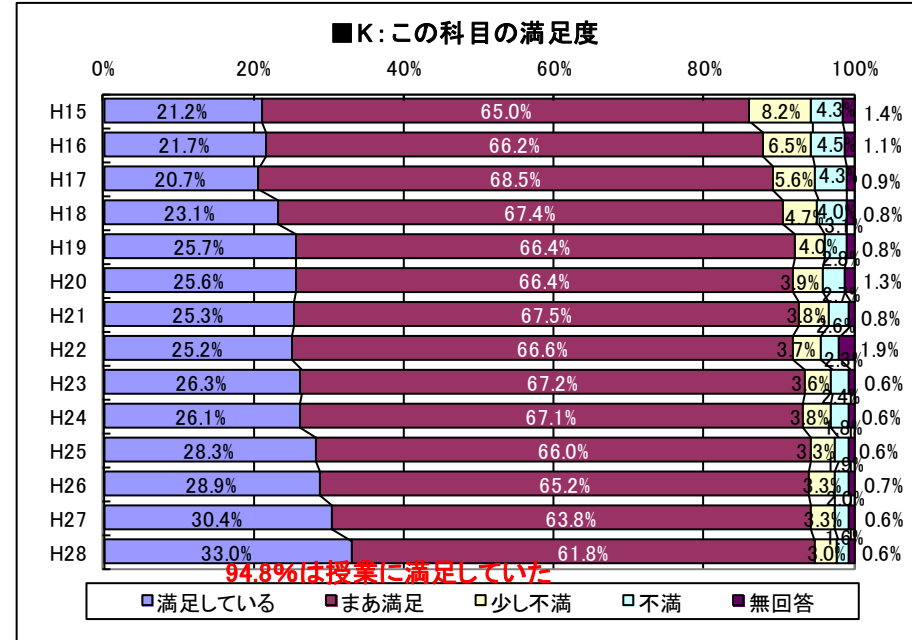
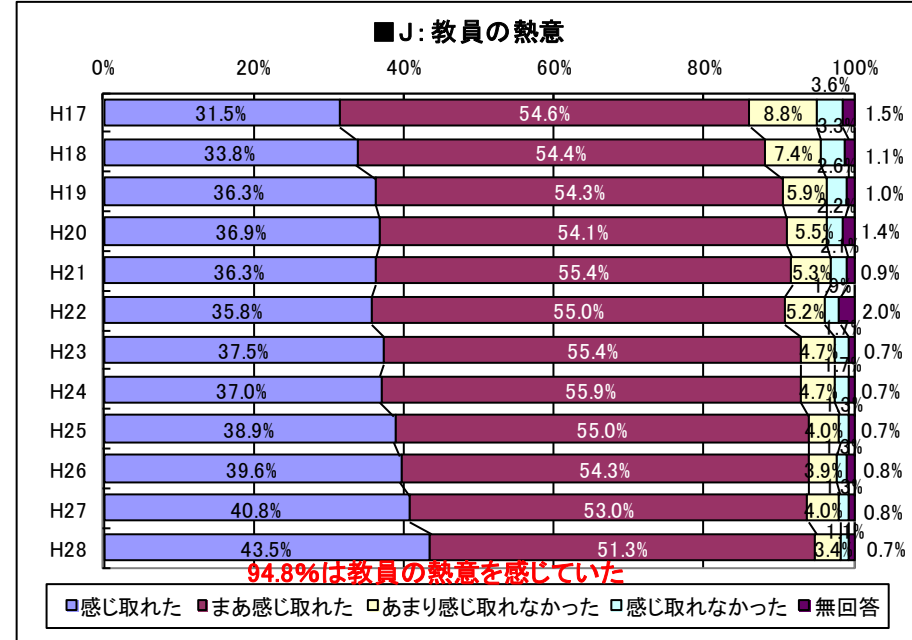
※相談経験者のみに絞って有効性を聞いた。



- 「J:教員の熱意」は「授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか?」という質問であるが、「感じ取れた」が過去最高の43.5%、「まあ感じ取れた」が51.3%であり、合計すると94.8%が教員の熱意を感じたと答えていた。
- 前回と比較すると、教員の熱意を感じ取れたという意見は1.0ポイント増加していたが、横這い状態が続いていた。ただし、「感じ取れた」はH22あたりから増加する傾向が続いており、今回は過去最高となり、良い状態になってきていると言える。
- 「K:この科目の満足度」では「満足している」が前回は2.6ポイント上回って33.0%となり、過去最高となった。そして、「まあ満足」が61.8%であり、合計すると94.8%とほとんどの学生が授業に満足していると答えていた。
- 授業に満足という回答は前回は0.6ポイントとわずかに上回って過去最高となったものの、横這い状態が続いていた。ただし、「満足している」だけを見るとH24あたりから増加傾向が続いており、全体の1/3を占めるまでになっていた。

■満足している層の経年変化

年度	満足の割合	前年度との差
H15	86.2%	—
H16	87.9%	+1.7
H17	89.1%	+1.3
H18	90.5%	+1.4
H19	92.1%	+1.5
H20	92.0%	-0.1
H21	92.8%	+0.8
H22	91.8%	-1.0
H23	93.5%	+1.7
H24	93.2%	-0.3
H25	94.3%	+1.1
H26	94.1%	-0.2
H27	94.2%	+0.1
H28	94.8%	+0.6



# <2-2> 肯定的な意見の経年変化比較

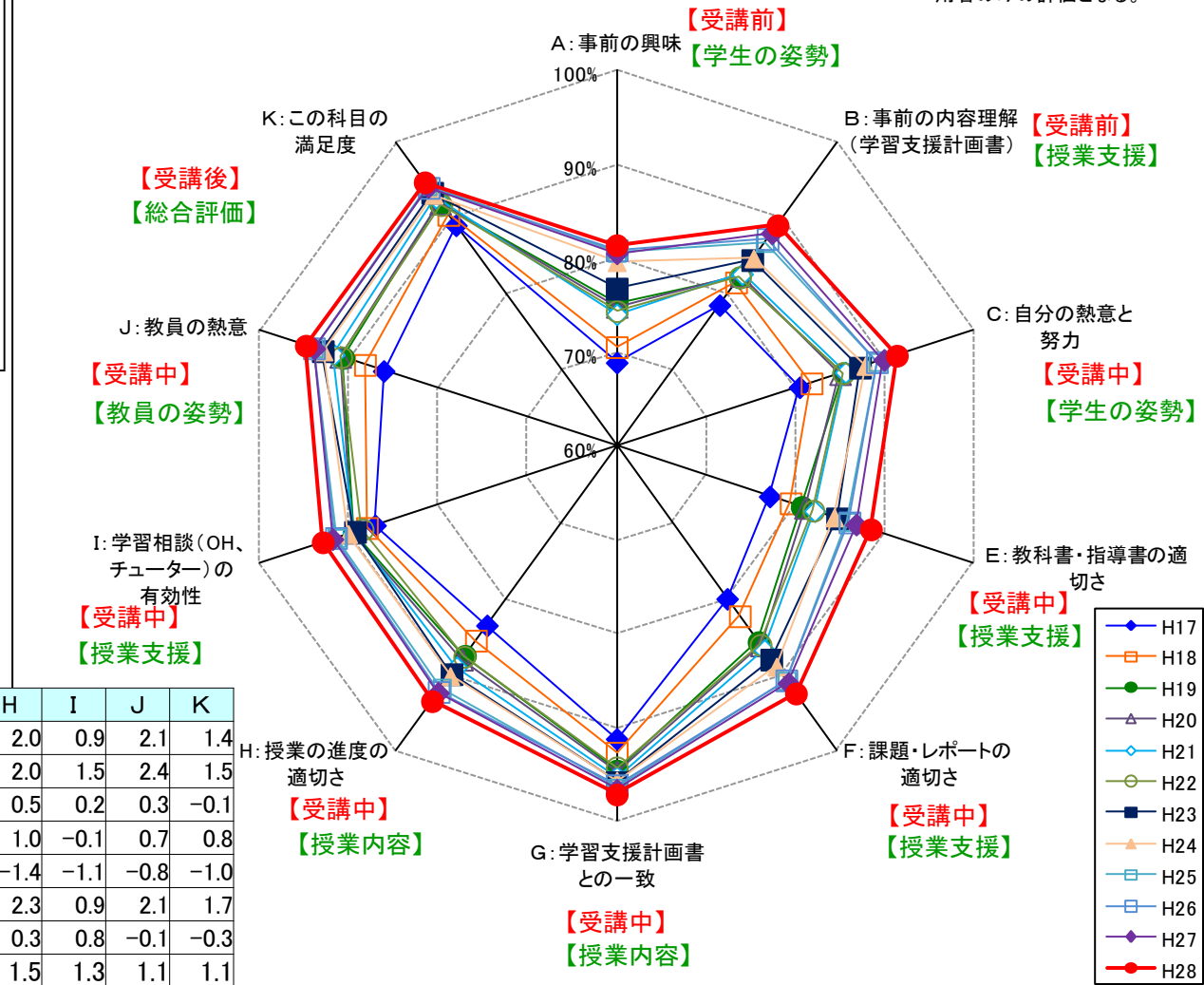
- 肯定的意見の合計をレーダーチャートで比較した。比較のできない「D: 予習・復習、課外学習活動」は除外し、「I: 学習相談(OH、チューター)の有効性」は利用経験者の評価だけを抽出している。
- 今回はすべての項目が過去最高のスコアとなった。H24からは上がった項目、下がった項目が混在していたが、今回は全てが向上しており、H24からH25の変化以来のこととなった。
- 項目別に見ると、「E:教科書・指導書の適切さ」の評価の向上が1.7ポイントで最も大きく、「C:自分の熱意と努力」と「F:課題・レポートの適切さ」が1.4ポイントとなっていた。

■ 肯定的な意見の差(単位:ポイント)

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
H17からH18の上昇	1.6	3.0	1.3	2.4	2.3	1.5	2.0	0.9	2.1	1.4
H18からH19の上昇	4.7	0.7	3.6	1.2	3.4	1.9	2.0	1.5	2.4	1.5
H19からH20の上昇	-0.4	0.2	-0.4	0.3	0.4	0.1	0.5	0.2	0.3	-0.1
H20からH21の上昇	-0.8	0.2	0.6	1.1	0.6	0.6	1.0	-0.1	0.7	0.8
H21からH22の上昇	0.3	-0.4	-0.3	-0.1	-0.7	-1.0	-1.4	-1.1	-0.8	-1.0
H22からH23の上昇	2.4	2.2	1.9	2.7	1.9	1.6	2.3	0.9	2.1	1.7
H23からH24の上昇	2.8	0.2	0.6	-0.3	0.9	-0.2	0.3	0.8	-0.1	-0.3
H24からH25の上昇	1.1	2.0	1.3	1.5	1.8	0.8	1.5	1.3	1.1	1.1
H25からH26の上昇	0.3	0.5	-0.1	0.2	0.0	-0.3	0.6	0.1	0.0	-0.2
H26からH27の上昇	-0.3	0.7	0.7	0.7	0.4	0.5	0.1	0.5	-0.1	0.1
H27からH28の上昇	0.9	1.0	1.4	1.7	1.4	0.5	1.1	1.1	1.0	0.6

■ 比較可能な項目の経年変化比較レーダーチャート

※「I:学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者からのみの評価となる。

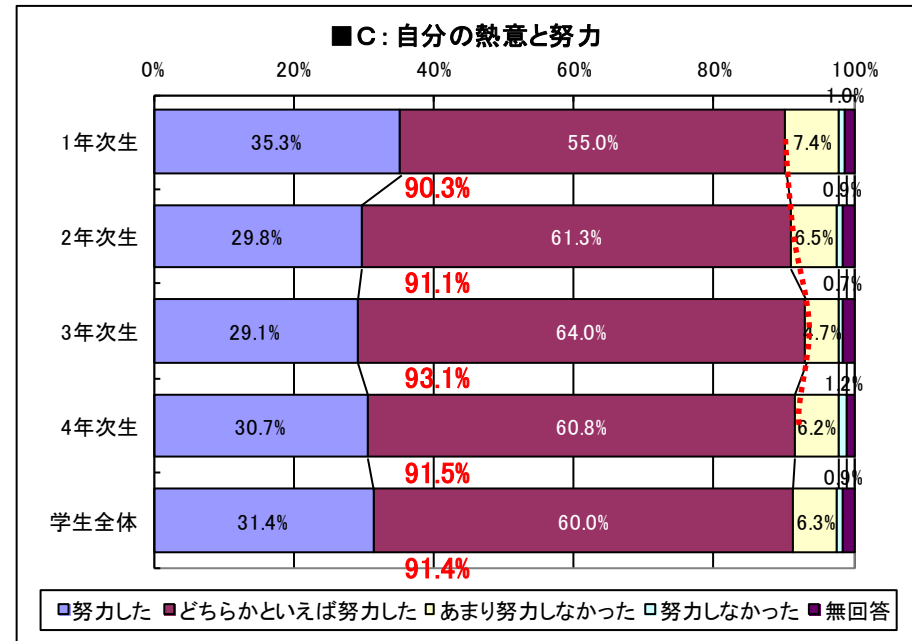
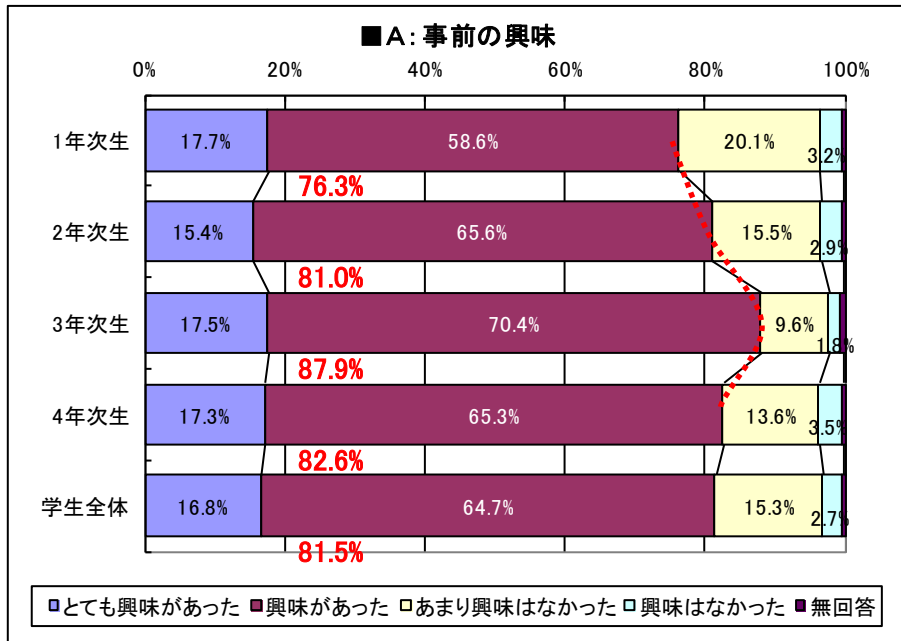
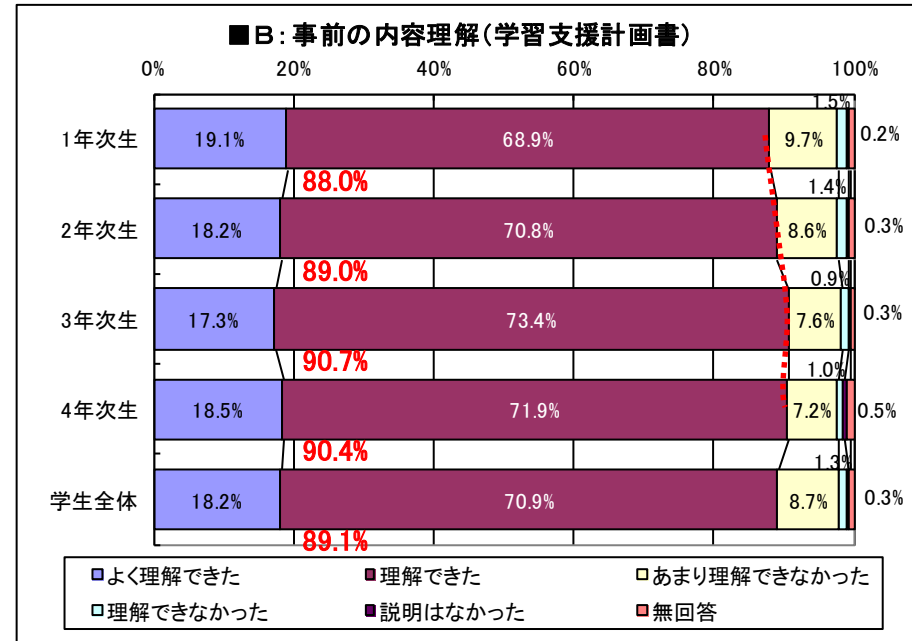


- H17
- H18
- H19
- ▲ H20
- ◇ H21
- H22
- H23
- ▲ H24
- ◇ H25
- H26
- ▲ H27
- H28

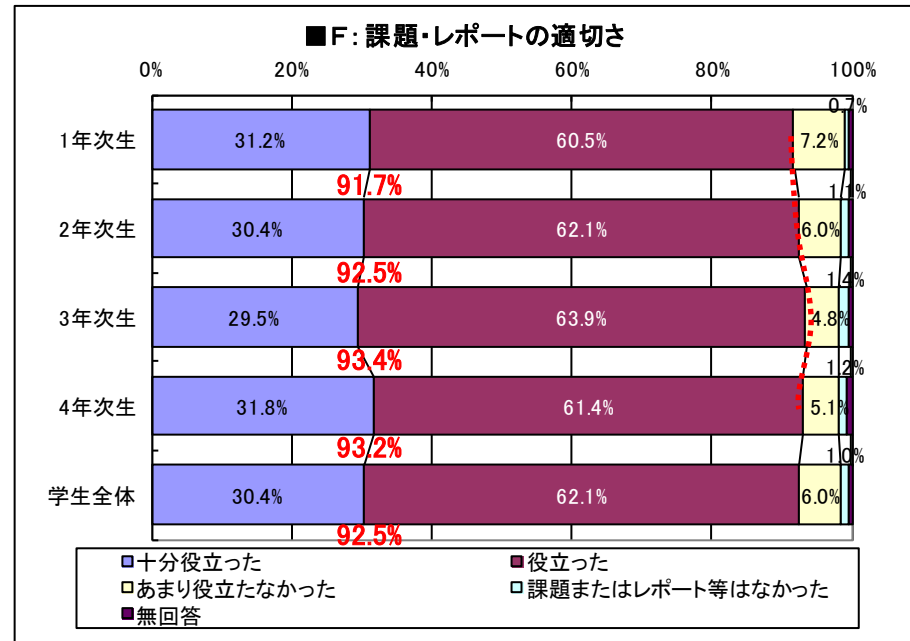
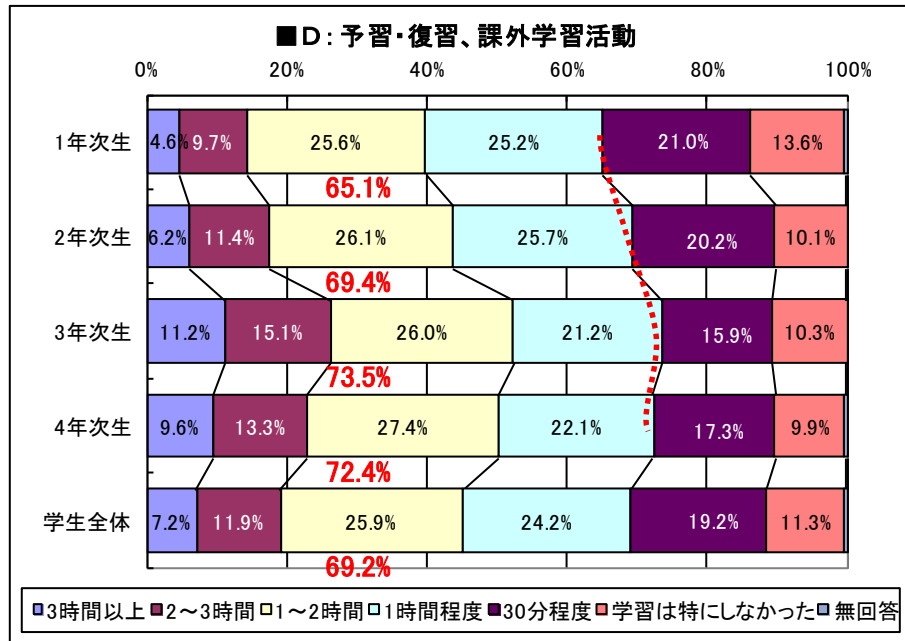
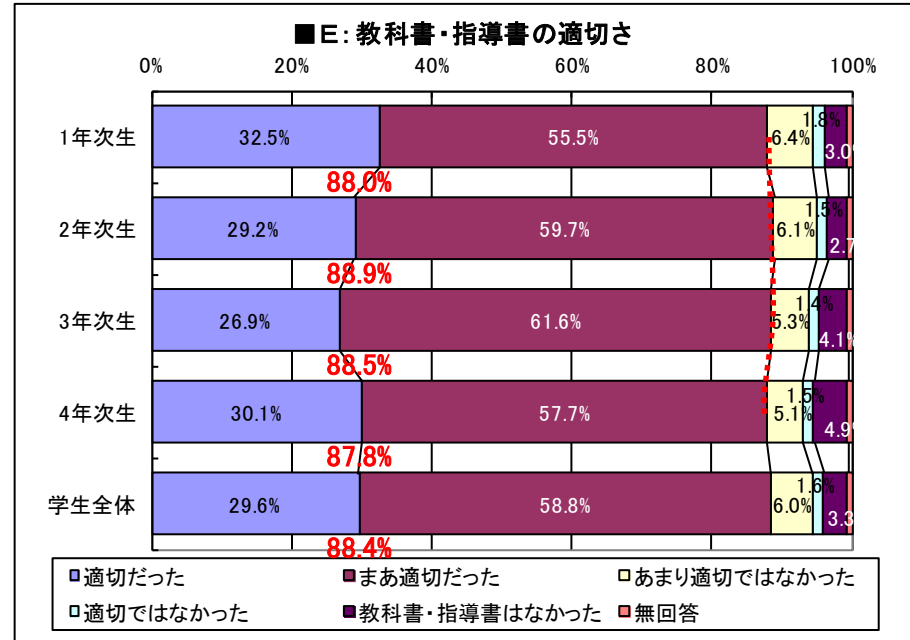


### <3> 学年別の分析

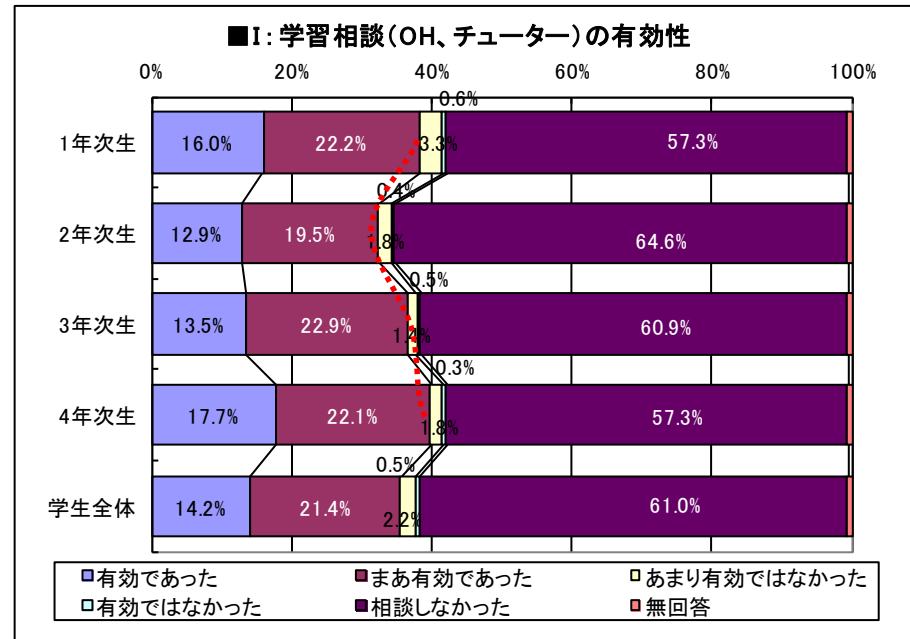
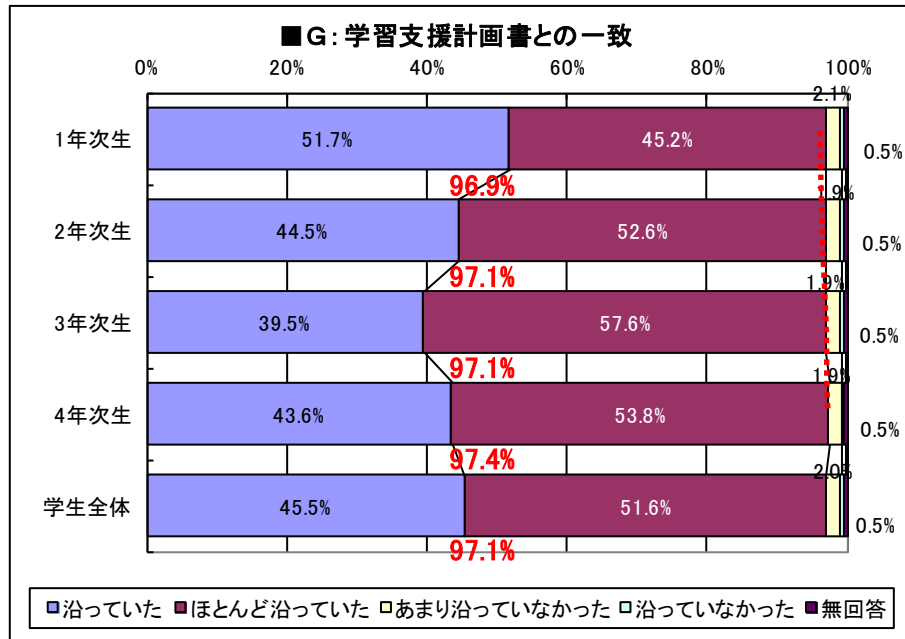
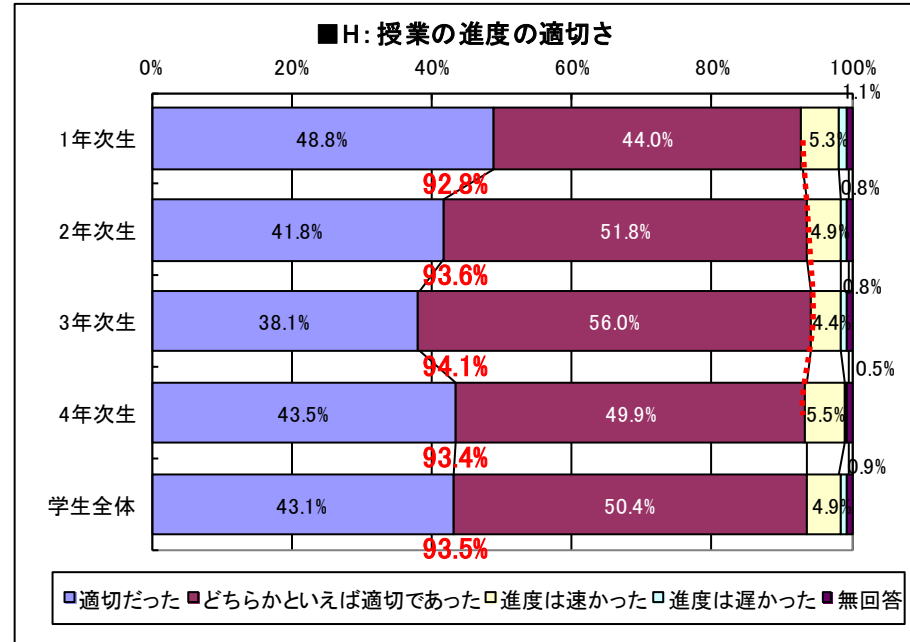
- 「A: 事前の興味」を学年別に比較すると、肯定的な意見の合計は「1年次生」で76.3%、「2年次生」で81.0%、「3年次生」で87.9%となり、ここまでは学年が上がるほど興味が増していたが、「4年次生」になると82.6%となり、やや興味が減っていた。ただし、「とても興味があった」だけを見ると学年による差はほとんど見られなかった。
- 「B: 事前の内容理解(学習支援計画書)」で肯定的な意見を比較すると、最も多い「3年次生」の90.7%と、最も少ない「1年次生」の88.0%の間の差は2.7ポイントと非常に少なかった。そして、「よく理解できた」の最大と最小の差も1.8ポイントであり、大きな差は見られなかった。
- 「C: 自分の熱意と努力」は「1年次生」から「3年次生」にかけて肯定的な意見が増加していたが、その差は2.8ポイントと非常に少なかった。ただし、「努力した」だけを見ると「1年次生」の35.3%はやや多く、「1年次生」が熱意を持って努力している様子が見えかけた。



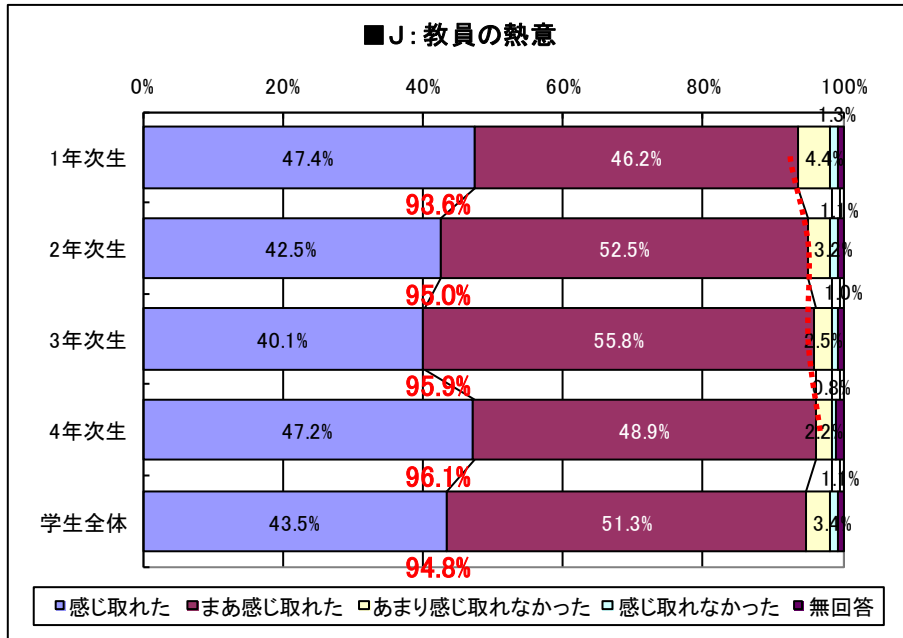
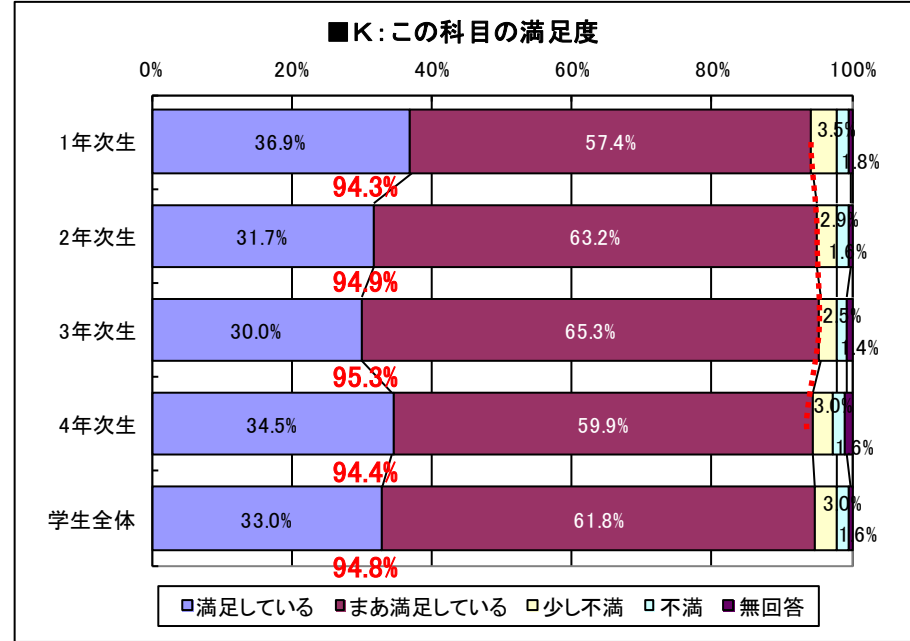
- 「D:予習・復習、課外学習活動」に関して、「1時間程度」までの合計で比較すると、「1年次生」が65.1%、「2年次生」が69.4%、「3年次生」が73.5%となり、ここまでは高学年の方がしっかりと学習時間を確保している傾向が見られた、これは「3時間以上」「2～3時間」を見ても同じ傾向であり、「3年次生」が最も学習時間を確保していた。そして、「4年次生」でやや減少していた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」を肯定的な意見で比較すると、学年間の差は非常に小さく、最も多い「2年次生」(88.9%)と、最も少ない「4年次生」(87.8%)の差は1.1ポイントであった。ただし、「適切だった」だけを見ると「1年次生」が32.5%とやや多く、教科書・指導書を高く評価していた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」も学年による差は小さく、肯定的な意見が最も多い「3年次生」(93.4%)と、最も少ない「1年次生」(91.7%)との差は1.7ポイントであった。そして、「十分役立った」だけを見ても学年間の差はほとんど見られず、課題・レポートの評価には差がないと言える。



- 「G:学習支援計画書との一致」はいずれの学年も非常に高い評価となっており、最も高い「4年次生」(97.4%)と、最も低い「1年次生」(96.9%)との差はわずかに0.5ポイントであった。ただし、「沿っていた」だけで比較すると、「1年次生」が51.7%と目立って高く、「3年次生」までは学年が上がるごとに低下していた。
- 「H:授業の進度の適切さ」も学年による差は少なく、最も高い学年と最も低い学年の差は1.3ポイントであった。ただし、「適切だった」だけを見ると、ここでも差が見られ、最も高い「1年次生」は48.8%、最も低い「3年次生」は38.1%であり、その差は10.7ポイントであった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」の割合を比較すると、いずれの学年も6割程度であったが、「2年次生」が64.6%とやや多く、学習相談を利用していない様子が見えがえた。そして、評価を見ると、「あまり有効ではなかった」「有効ではなかった」という意見はいずれの学年でも非常に少なく、いずれの学年も内容的には大きな問題は感じていないようであった。



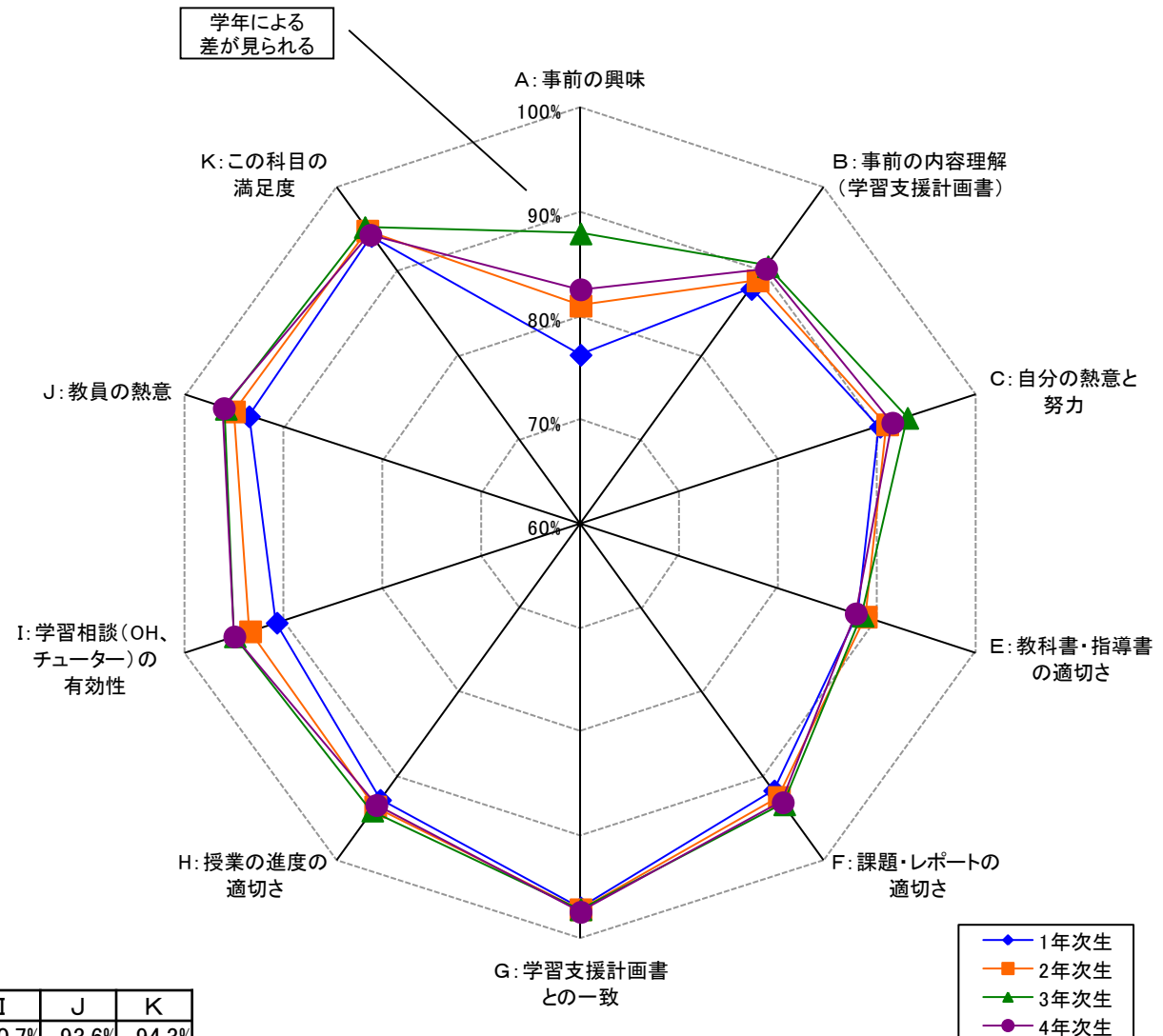
- 「J:教員の熱意」で肯定的な意見は「1年次生」の93.6%から、学年が上がるほど高くなり、「4年次生」では96.1%となっていた。ただし、差は2.5ポイントとわずかであり、いずれの学年の教員評価も高いと言える。そして、「感じ取れた」だけを見ると、「1年次生」が47.4%、「4年次生」が47.2%と高く、最も低かったのは「3年次生」の40.1%であった。
- 「K:この科目の満足度」も学年間の差は非常に小さかったが、肯定的な意見は「1年次生」が94.3%、「2年次生」が94.9%、「3年次生」が95.3%であり、ここまでは高学年の方が満足度が高かった。ただし、その差は1.0ポイントであり、「4年次生」も含めてすべての学年で95.0%程度が満足と答えており、満足度は非常に高いと言える。そして、「満足している」だけを見ると、「1年次生」の36.9%が最も高く、「2年次生」が31.7%、「3年次生」が30.0%となり、肯定的な意見の合計とは逆に「3年次生」に向けて減少する傾向が見られた。



# <3-2> 肯定的な意見の学年別比較

- 肯定的な意見の合計を学年別にレーダーチャートにプロットして比較を行った。
- 全体的の傾向を見ると、多くの項目で「3年次生」で肯定的な意見が多かったが、グラフを見ると差はほとんどなく、授業の事前の内容理解、受講中の熱意や姿勢、授業内容や課題の評価、満足度など、いずれの学年も非常に高い評価となっていると言える。
- 差が見られたのは「事前の興味」であり、「1年次生」の低さと「3年次生」の高さが目立っていた。他に差は小さいものの「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」と「J:教員の熱意」で「1年次生」がやや低くなっていた。

### ■ 学年別比較レーダーチャート

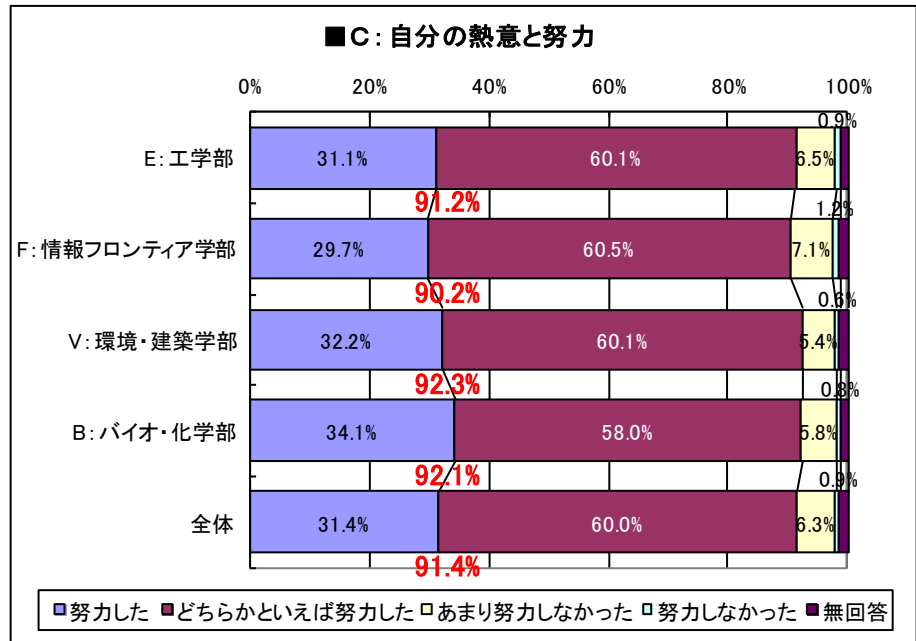
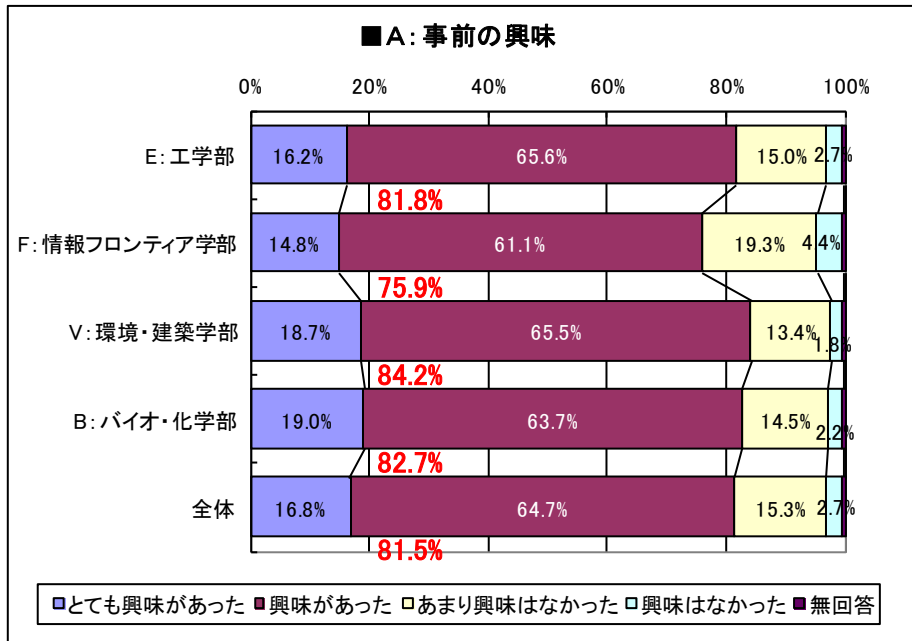
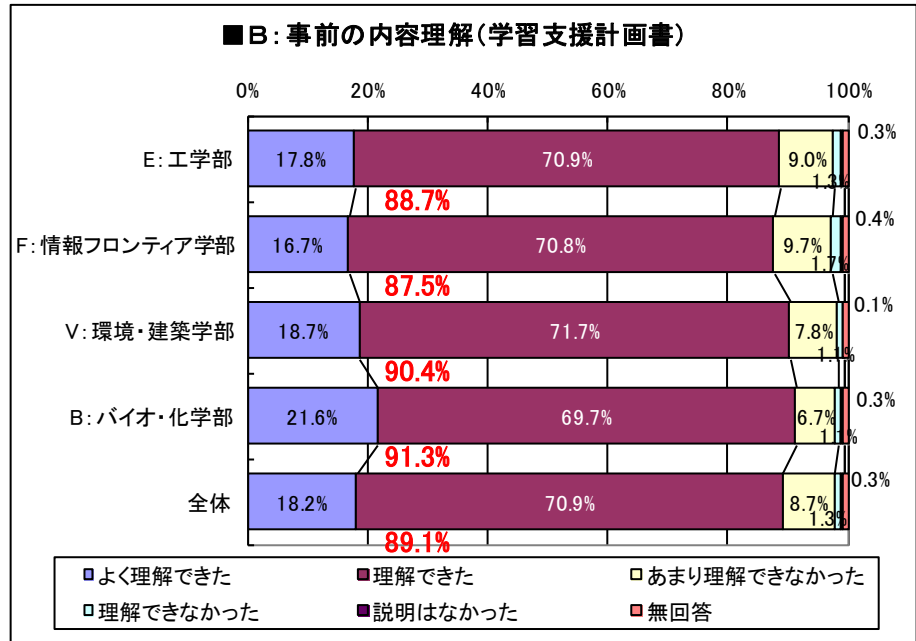


### ■ 学年別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
1年次生	76.3%	88.0%	90.3%	88.0%	91.7%	96.9%	92.8%	90.7%	93.6%	94.3%
2年次生	81.0%	89.0%	91.0%	88.9%	92.5%	97.1%	93.6%	93.4%	95.1%	94.9%
3年次生	88.0%	90.7%	93.1%	88.5%	93.4%	97.1%	94.1%	95.0%	95.9%	95.3%
4年次生	82.6%	90.4%	91.6%	87.9%	93.1%	97.3%	93.4%	95.0%	96.1%	94.4%

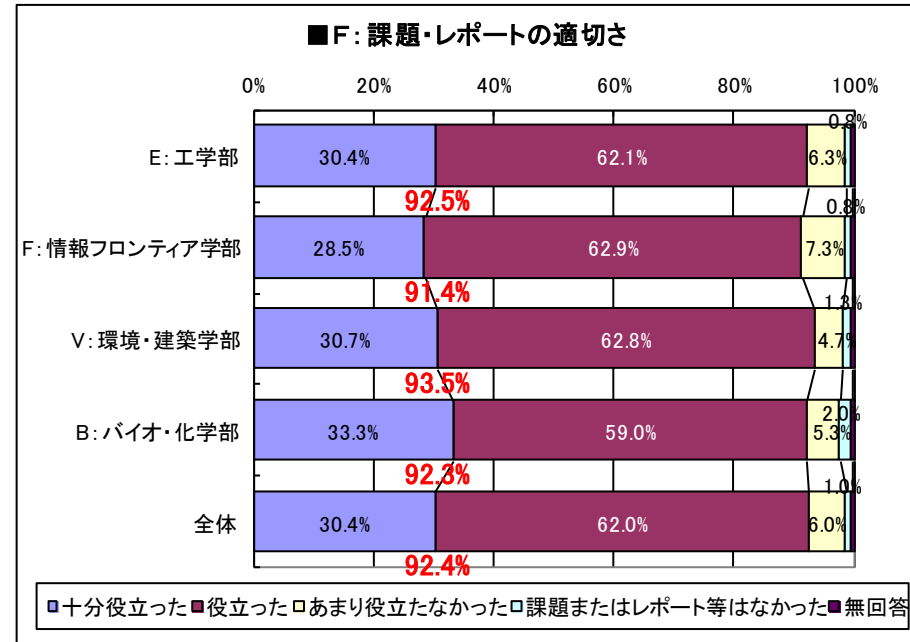
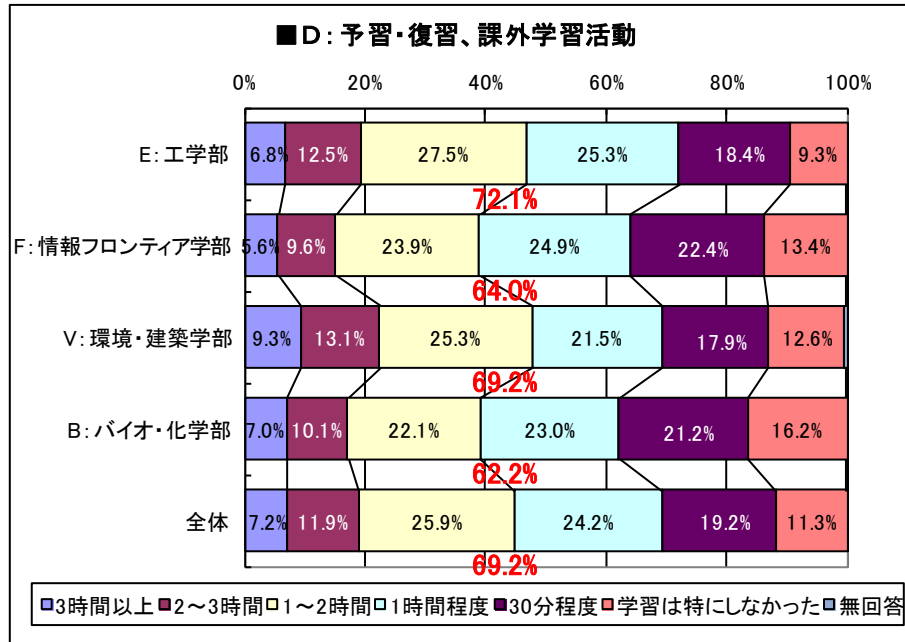
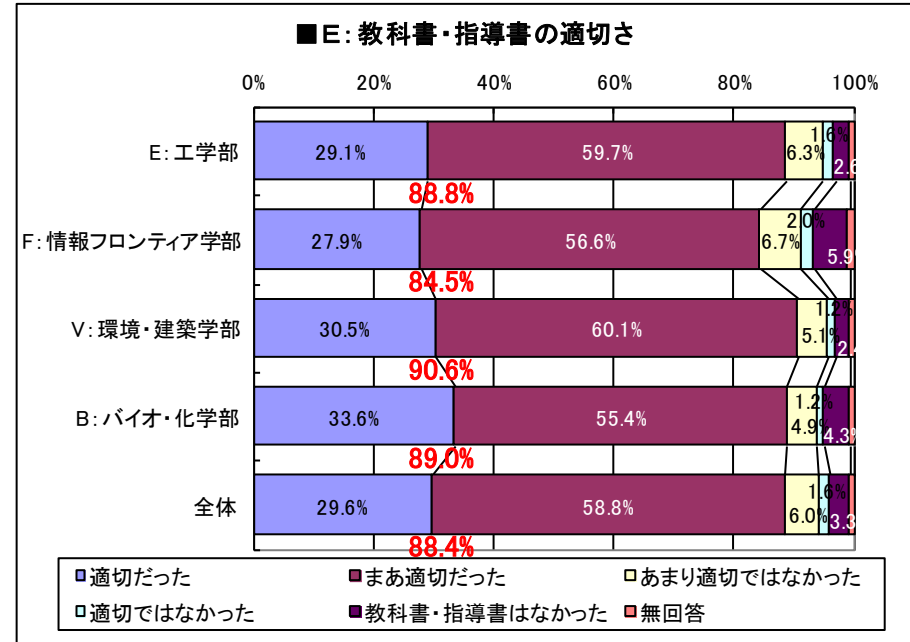
## <4> 学部・学科別の分析

- 「A:事前の興味」を学部別に比較したところ、肯定的な意見の合計が最も多かったのは「V:環境・建築学部」の84.2%であり、次いで、「B:バイオ・化学部」が82.7%、「E:工学部」が81.8%、「F:情報フロンティア学部」が75.9%であり、「V:環境・建築学部」と「F:情報フロンティア学部」の差は8.3ポイントであった。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」は4学部共に肯定的な意見の合計が9割程度で差は小さく、最も高い「B:バイオ・化学部」(91.3%)と、最も低い「F:情報フロンティア学部」(87.5%)との差は3.8ポイントと小さかった。
- 「C:自分の熱意と努力」も学部による差が小さく、いずれの学部も肯定的な意見が9割以上であり、自己評価は非常に高いと言える。中でも最も高かったのは「V:環境・建築学部」の92.3%であり、最も低い「F:情報フロンティア学部」の90.2%との差は2.1ポイントであった。



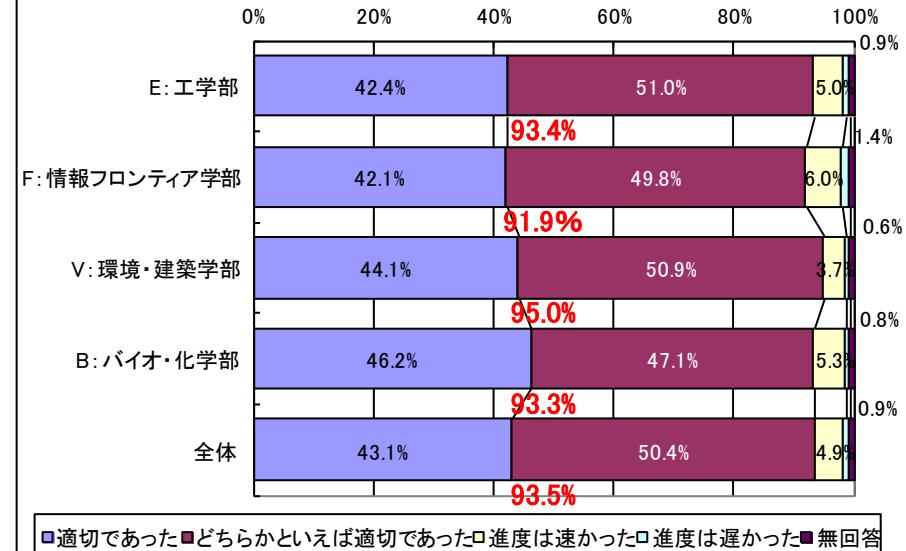


- 「D:予習・復習、課外学習活動」に関して、「1時間程度」までの合計で学部別に比較したところ、「E:工学部」が72.1%と最も多く、「V:環境・建築学部」が69.2%、「F:情報フロンティア学部」が64.0%、「B:バイオ・化学部」が62.2%と続いていた。「1時間程度」までの合計では「E:工学部」が多かったが、「3時間以上」「2～3時間」はいずれも「V:環境・建築学部」が多くなっていた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」では「V:環境・建築学部」で肯定的な意見が90.6%と最も高く、次いで「B:バイオ・化学部」が89.0%、「E:工学部」が88.8%、「F:情報フロンティア学部」が84.5%であり、「F:情報フロンティア学部」がやや低めであった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は全ての学部で9割以上が肯定的な意見であり、高い評価となっていた。そして、最も高い「V:環境・建築学部」(93.5%)と、最も低い「F:情報フロンティア学部」(91.4%)との差は2.1ポイントであり、差は少なかった。

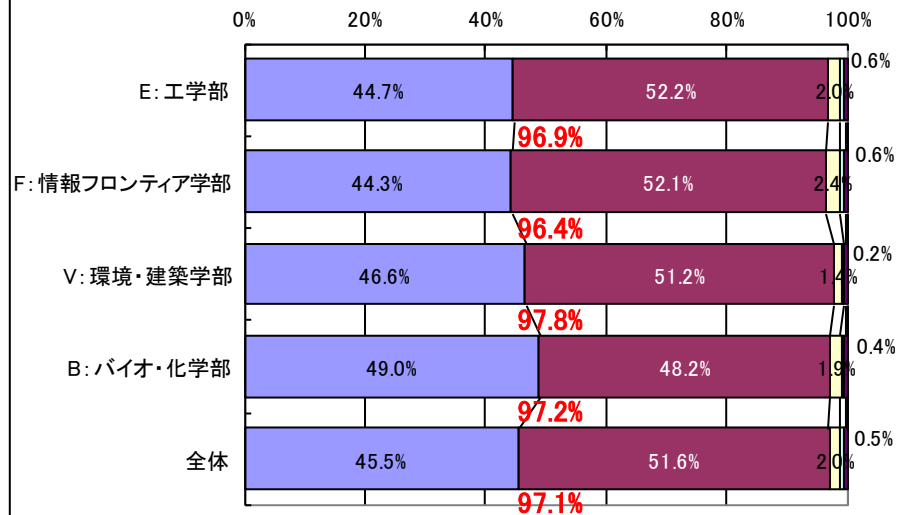


- 「G:学習支援計画書との一致」は全ての学部で95%以上が肯定的な意見であり、評価は非常に高かった。中でも最も高かったのは「V:環境・建築学部」の97.8%であり、最も低い「F:情報フロンティア学部」でも96.4%が肯定的な意見であった。
- 「H:授業の進度の適切さ」も全ての学部で9割以上が肯定的な意見であった。そして、最も高い「V:環境・建築学部」(95.0%)と、最も低い「F:情報フロンティア学部」(91.9%)との差は3.1ポイントであり、それほど大きな差ではなかった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」の割合を比較すると、「V:環境・建築学部」が56.3%で最も少なく、学習相談を良く活用している様子が見えてきた。そして、評価に関しては、いずれの学部でも肯定的な意見が非常に多く、ほとんどの利用者は学習相談が有効であると感じているようであった。

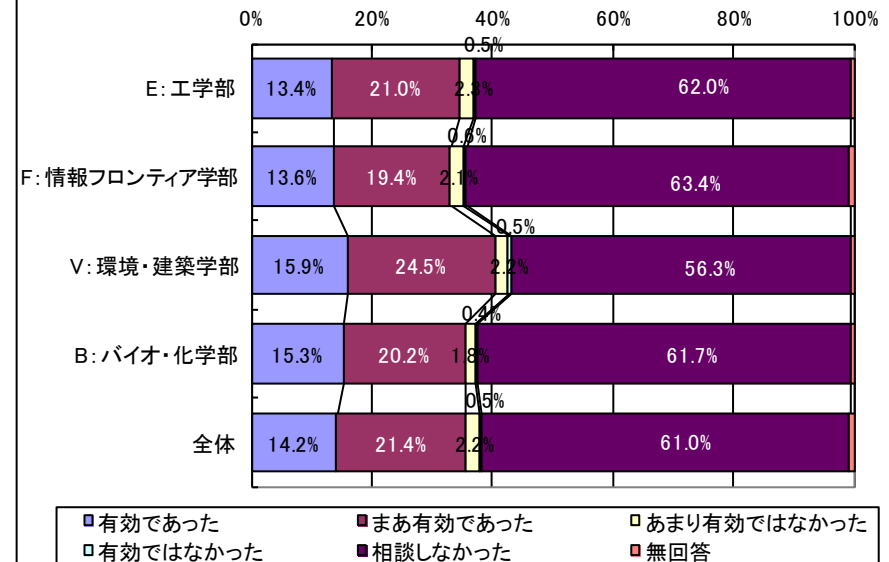
■ H: 授業の進度の適切さ



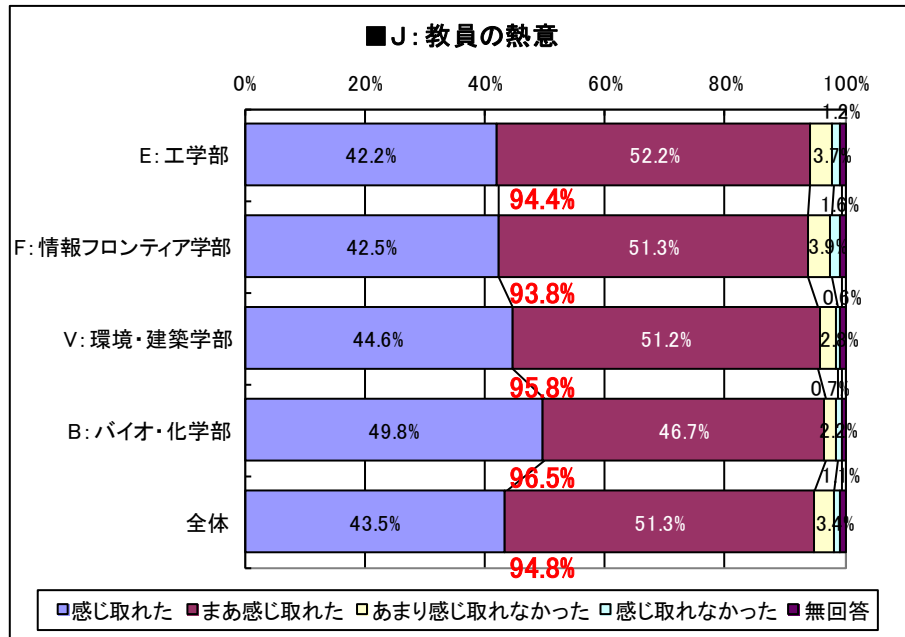
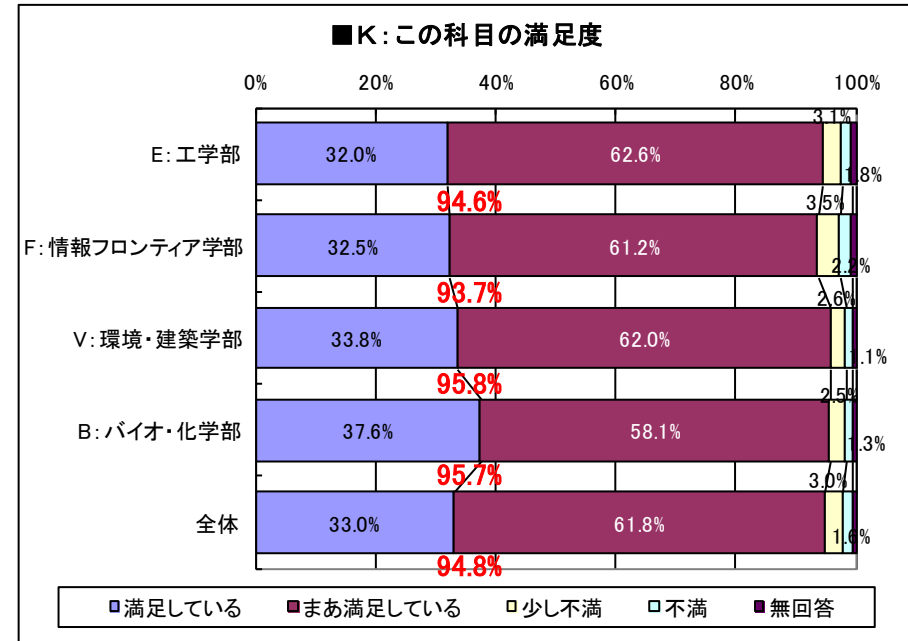
■ G: 学習支援計画書との一致



■ I: 学習相談(OH、チューター)の有効性



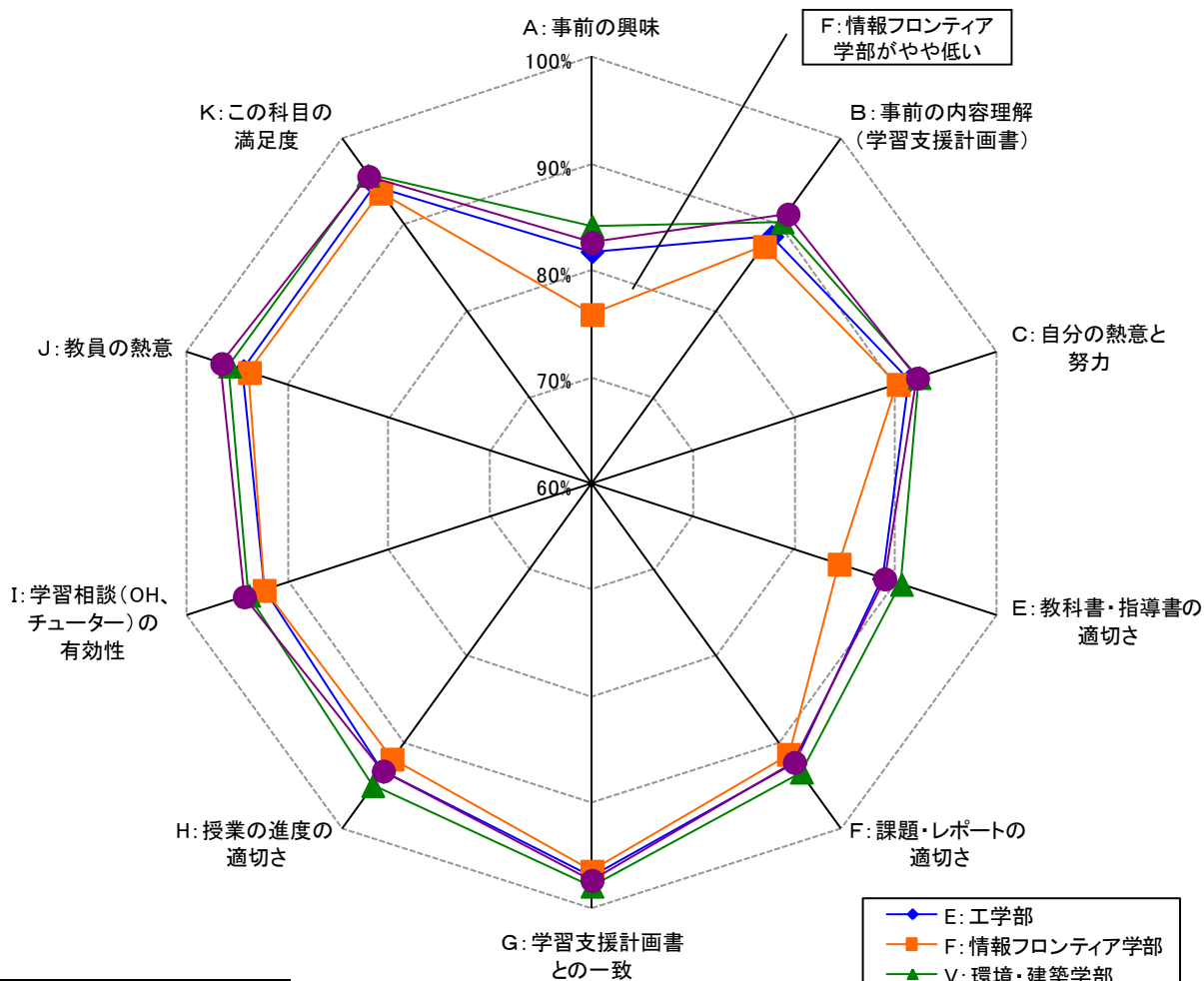
- 「J:教員の熱意」も全ての学部で9割以上が肯定的な意見であり、評価は非常に高かった。そして、最も肯定的な意見が多かったのは「B:バイオ・化学部」の96.5%であり、「V:環境・建築学部」が95.8%、「E:工学部」が94.4%、「F:情報フロンティア学部」が93.8%であり、学部間の差は小さかった。
- 「K:この科目の満足度」も全ての学部で9割以上が肯定的な意見であり、非常に高い満足度になっていた。最も満足度が高かったのは「V:環境・建築学部」の95.8%であり、「B:バイオ・化学部」が95.7%と続いていたが、「満足している」だけを見ると「B:バイオ・化学部」が37.6%と最も多かった。そして、最も満足度が低かったのは「F:情報フロンティア学部」の93.7%であり、「V:環境・建築学部」との差は2.1ポイントと小さかった。



- 肯定的な意見の割合を、学部別にレーダーチャートでまとめた。
- 学部の差は小さいがすべての項目で「F:情報フロンティア学部」が最も低かった。特に「A:事前の興味」と「E:教科書・指導書の適切さ」の低さが目立っており、「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」は「E:工学部」と同じであった。
- 上記以外の3学部の差は小さく、全体的によく似た評価になっていたが、「V:環境・建築学部」が「E:教科書・指導書の適切さ」「H:授業の進度の適切さ」など、わずかに高い項目が見られた。

■ 学部別比較レーダーチャート

※「I:学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者からのみの評価となる。



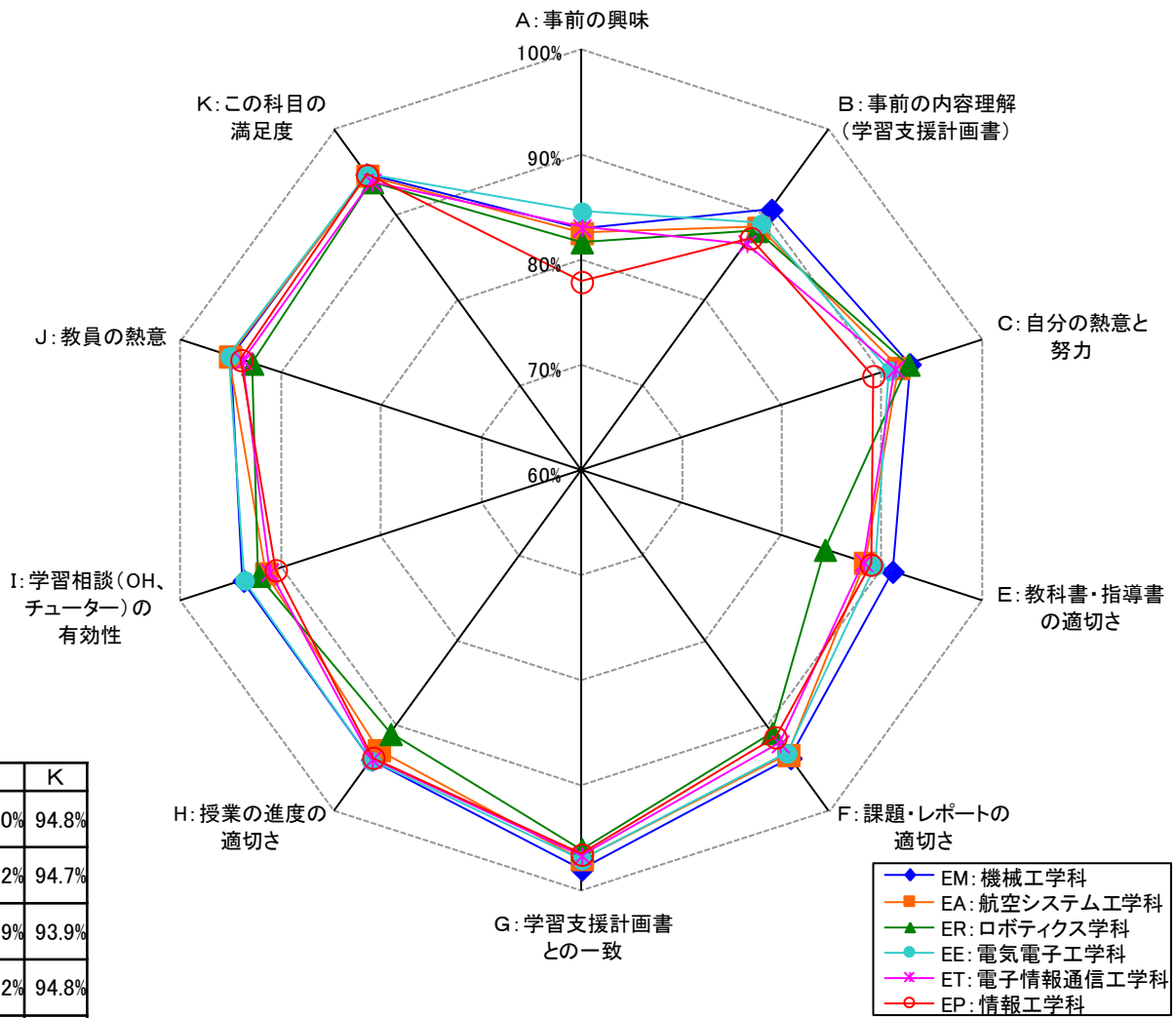
■ 学部別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
E: 工学部	81.8%	88.7%	91.2%	88.8%	92.5%	96.9%	93.4%	92.4%	94.4%	94.6%
F: 情報フロンティア学部	75.9%	87.6%	90.2%	84.4%	91.4%	96.4%	92.0%	92.4%	93.8%	93.7%
V: 環境・建築学部	84.2%	90.4%	92.3%	90.6%	93.5%	97.8%	95.0%	93.9%	95.8%	95.8%
B: バイオ・化学部	82.7%	91.3%	92.1%	88.9%	92.3%	97.2%	93.3%	94.3%	96.6%	95.7%

# <4-3> 肯定的な意見の学科別比較

- 学科数が多いため、学科別集計は学部毎に分けて比較をしている。
- 「工学部」は学科間の差はあまり大きくなく、全体的に高い学科や全体的に低い学科は見られなかった。
- 「EM:機械工学科」は「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」と「E:教科書・指導書の適切さ」の評価がやや高かった。
- 「ER:ロボティクス学科」は「E:教科書・指導書の適切さ」と「H:授業の進度の適切さ」がやや低かった。
- 項目で見ると「A:事前の興味」は学科による差がやや見られ、「EE:電気電子工学科」がやや高く、「EP:情報工学科」がやや低かった。

■工学部 学科別比較レーダーチャート

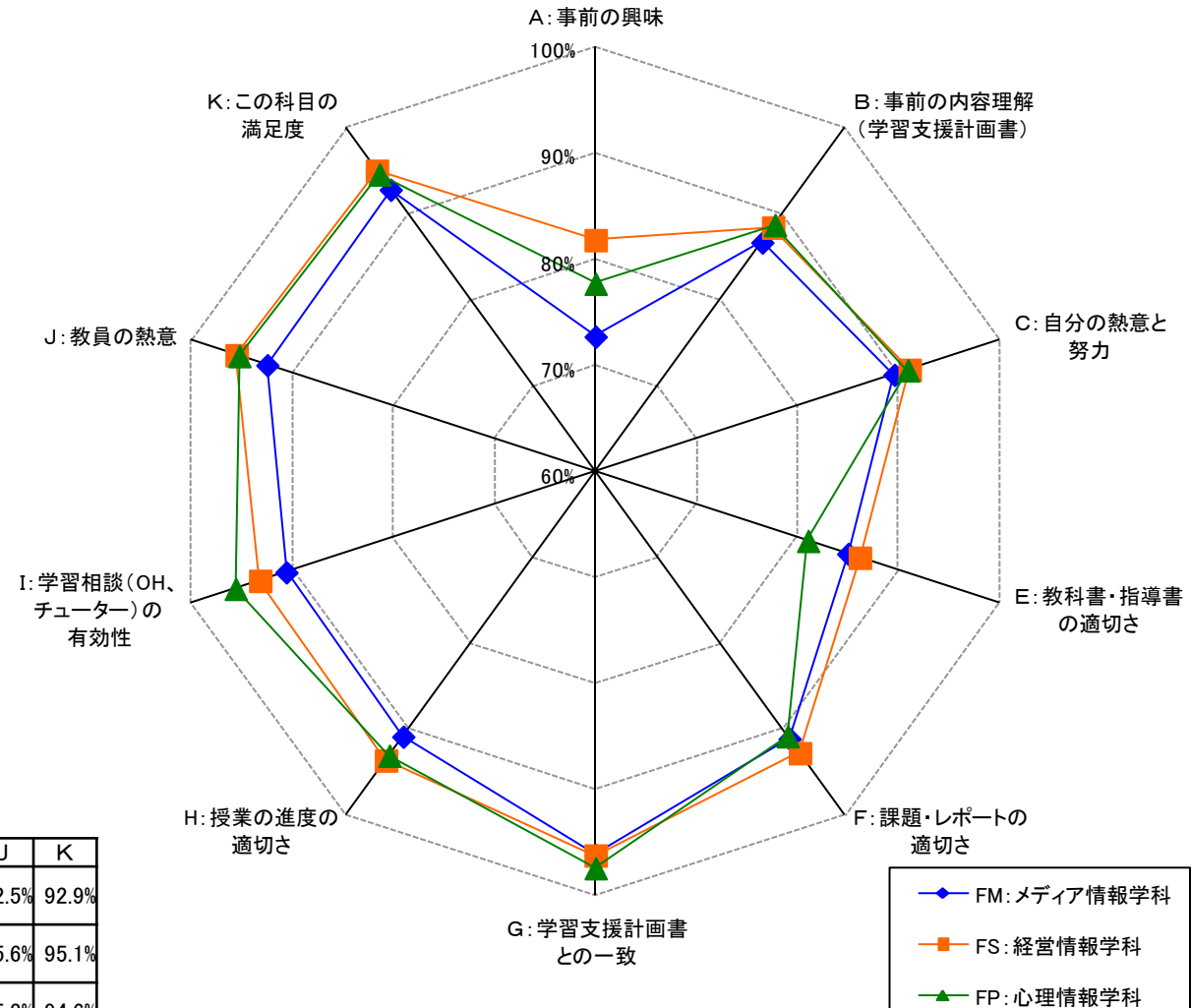


■工学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
EM:機械工学科	82.9%	90.7%	92.8%	91.0%	93.7%	97.9%	93.9%	93.8%	95.0%	94.8%
EA:航空システム工学科	82.6%	88.5%	91.6%	88.3%	93.4%	96.9%	92.8%	91.5%	95.2%	94.7%
ER:ロボティクス学科	81.7%	88.2%	92.6%	84.3%	90.8%	96.0%	90.9%	92.3%	92.9%	93.9%
EE:電気電子工学科	84.6%	89.0%	90.8%	89.3%	93.2%	97.0%	94.1%	93.7%	95.2%	94.8%
ET:電子情報通信工学科	83.1%	86.7%	91.3%	88.2%	92.1%	96.6%	93.9%	91.2%	93.9%	93.9%
EP:情報工学科	77.9%	87.3%	89.1%	88.9%	91.3%	96.5%	93.7%	90.6%	94.0%	94.7%

- 「情報フロンティア学部」は学科間の差がやや大きかった。
- 「FM:メディア情報学科」が全体的に低く、「A:事前の興味」「H:授業の進度の適切さ」「I:学習支援(OH、チューター)の有効性」「J:教員の熱意」の低さが目立っており、高い項目は見られなかった。
- 上記以外の2学科を見ると、「FS:経営情報学科」は「A:事前の興味」の高さが目立っており、「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」がやや高めであった。
- 「FP:心理情報学科」は「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」が高かったが、「E:教科書・指導書の適切さ」は目立って低くなっていた。

■情報フロンティア学部 学科別比較レーダーチャート

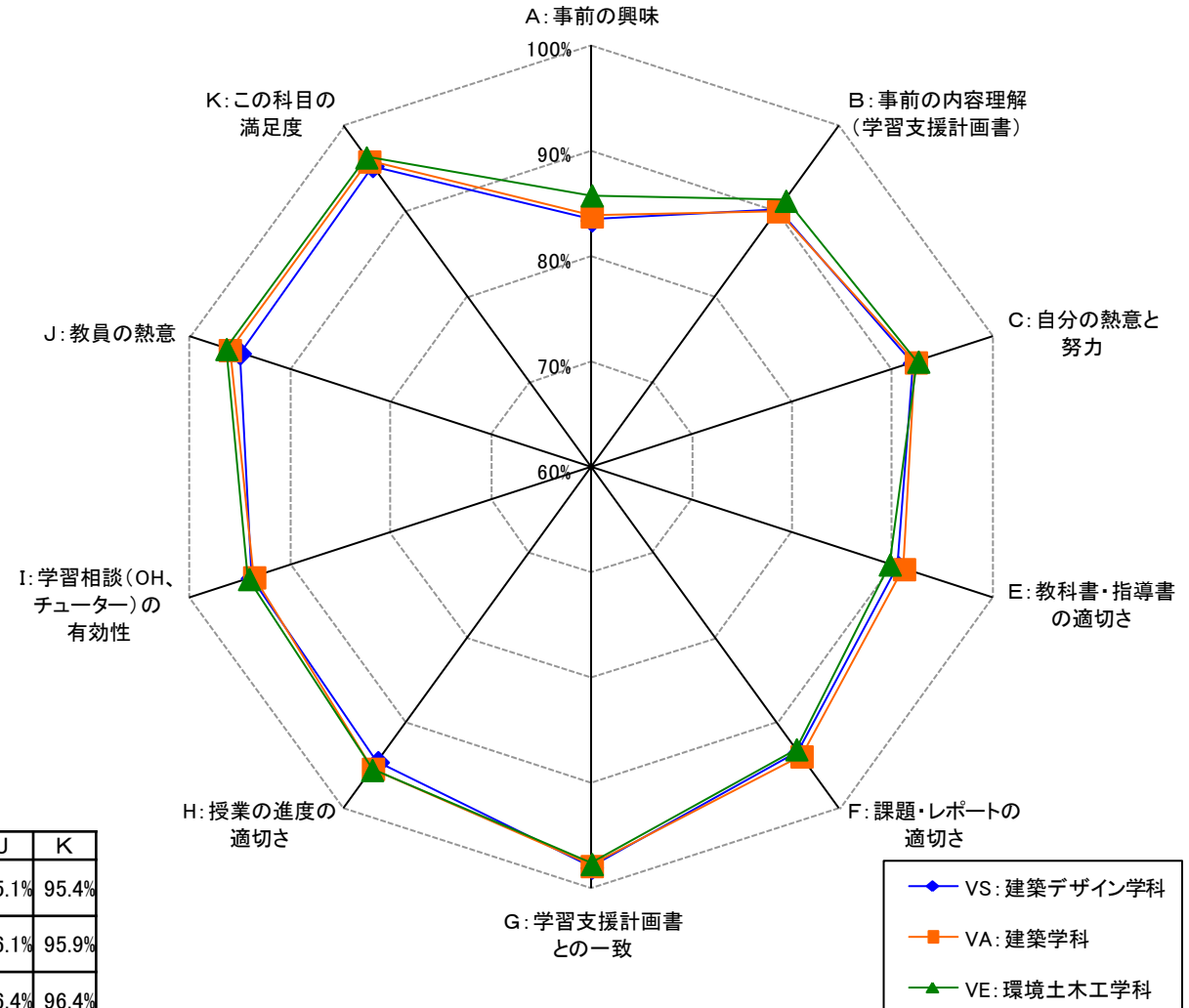


■情報フロンティア学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
FM:メディア情報学科	72.7%	86.7%	89.6%	85.0%	91.1%	96.1%	90.8%	90.6%	92.5%	92.9%
FS:経営情報学科	81.8%	88.4%	91.1%	86.2%	92.8%	96.1%	93.6%	93.2%	95.6%	95.1%
FP:心理情報学科	77.7%	88.7%	91.0%	81.0%	90.8%	97.3%	93.1%	95.7%	95.3%	94.6%

- 「環境・建築学部」の3学科は、学科の差が非常に小さかった。
- わずかな差ではあるが「VE:環境土木工学科」は「A:事前の興味」がやや高かった。

■環境・建築学部 学科別比較レーダーチャート

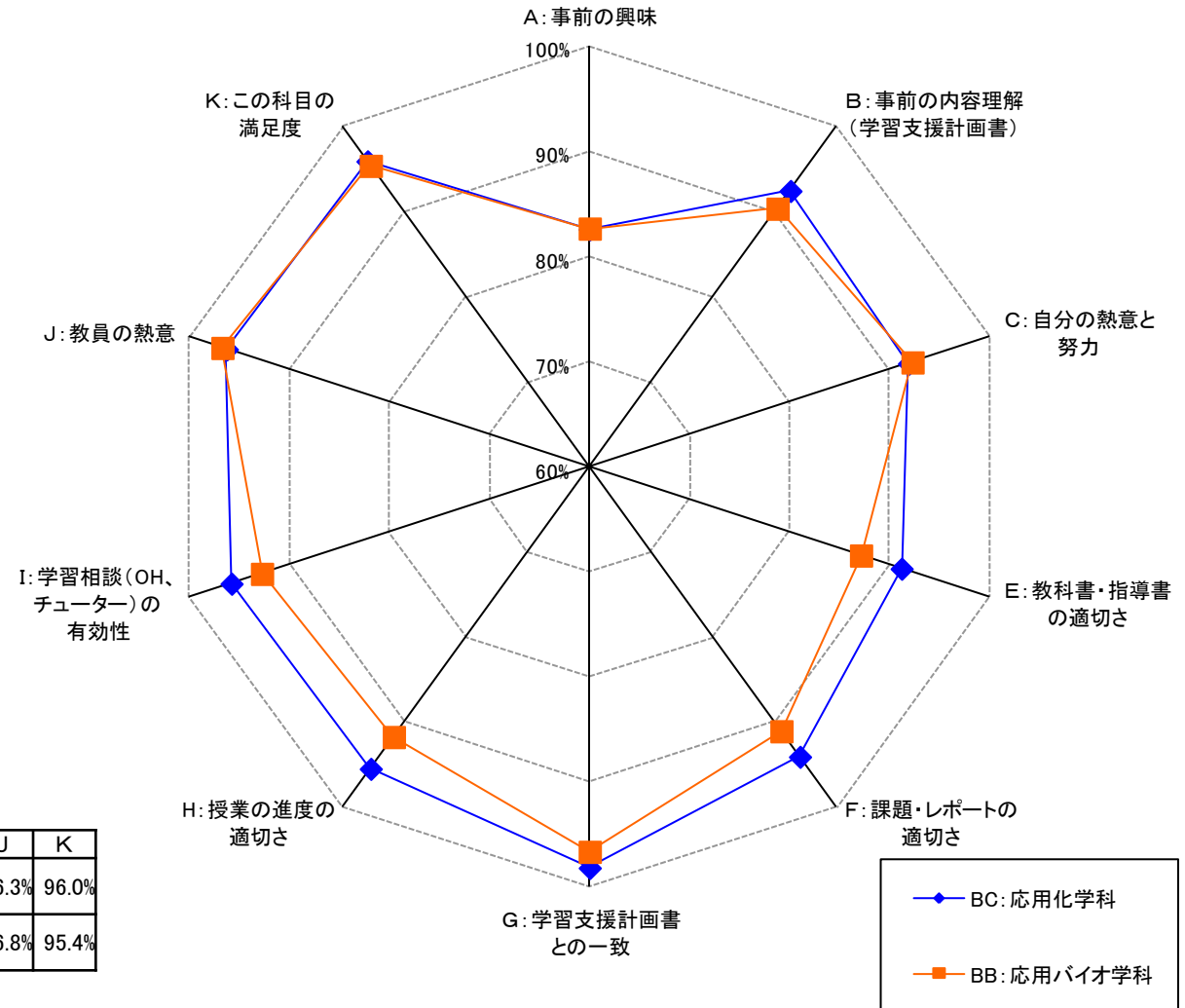


■環境・建築学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
VS: 建築デザイン学科	83.5%	90.1%	92.1%	90.6%	93.4%	97.9%	94.5%	93.9%	95.1%	95.4%
VA: 建築学科	83.8%	90.1%	92.3%	91.1%	93.8%	97.8%	95.3%	93.7%	96.1%	95.9%
VE: 環境土木工学科	85.8%	91.3%	92.6%	89.7%	93.0%	97.6%	95.4%	94.2%	96.4%	96.4%

- 「バイオ・化学部」は2学科の比較であるが、「BC:応用化学科」がやや高めであった。
- 「A:事前の興味」「C:自分の熱意と努力」「J:教員の熱意」「K:この科目の満足度」の4項目は2学科の間でほとんど差がなかったが、他の6項目は「BC:応用化学科」の方が高かった。

■ バイオ・化学部 学科別比較レーダーチャート



■ バイオ・化学部 学科別比較

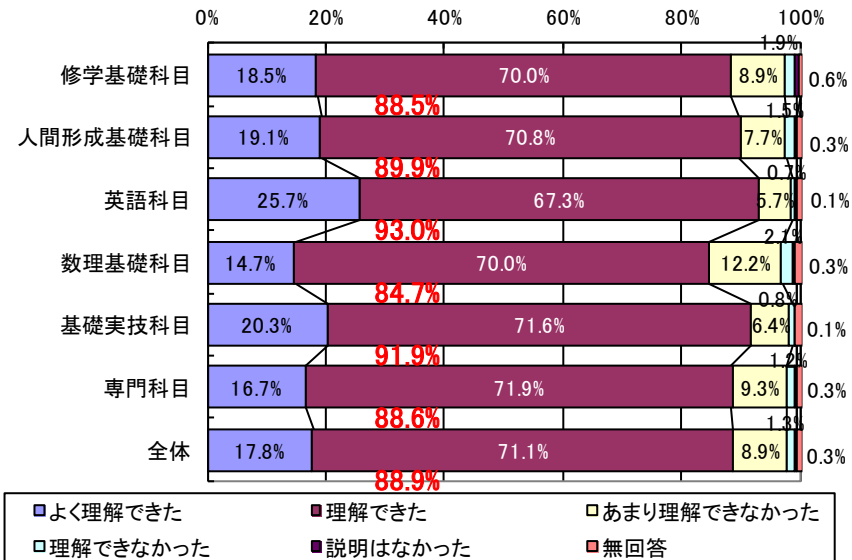
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
BC: 応用化学科	82.6%	92.5%	91.9%	91.2%	94.0%	98.1%	95.5%	95.8%	96.3%	96.0%
BB: 応用バイオ学科	82.7%	90.4%	92.3%	87.1%	91.0%	96.6%	91.7%	92.8%	96.8%	95.4%



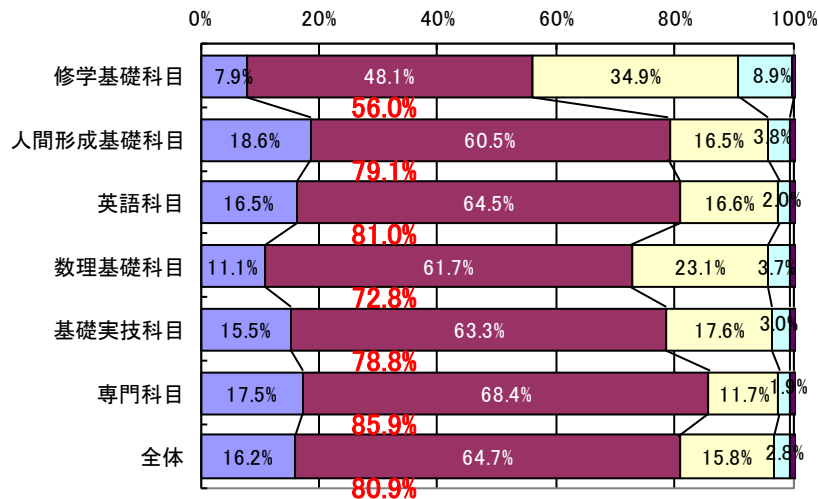
## <5>科目区分別の分析

- 授業を6つの科目区分で分けて、その評価の違いを見た。
- 「A:事前の興味」では「修学基礎科目」で肯定的な意見が56.0%と低さが目立っていた。また、「数理基礎科目」が72.8%とやや低くなっていた。一方、肯定的な意見が最も多かったのは「専門科目」の85.9%であり、「修学基礎科目」との差は29.9ポイントであった。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」は科目区分による差が大きくなかったが、「英語科目」が93.0%で肯定的な意見が最も多く、「数理基礎科目」が84.7%で最も少なかった。そして、「よく理解できた」だけを見ると「英語科目」が25.7%と多い点が特徴的であった。
- 「C:自分の熱意と努力」も科目区分による差が小さく、全ての科目区分で9割前後が肯定的な回答になっていた。中でも最も高かったのは「英語科目」の93.8%であり、特に「努力した」の多さが目立っていた。そして、最も低かったのは「数理基礎科目」の88.2%であり、「英語科目」との差は5.6ポイントであった。

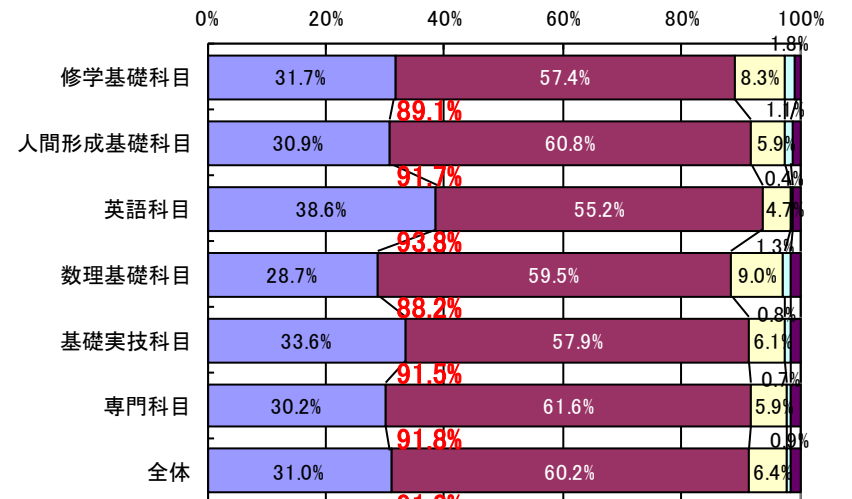
■B: 事前の内容理解(学習支援計画書)



■A: 事前の興味



■C: 自分の熱意と努力

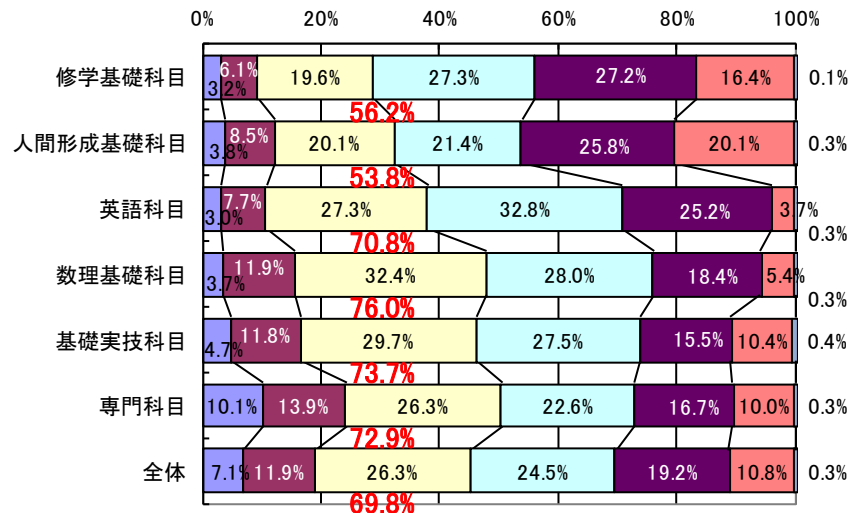


□とても興味があった ■興味があった □あまり興味はなかった □興味はなかった ■無回答

□努力した ■どちらかといえば努力した □あまり努力しなかった □努力しなかった ■無回答

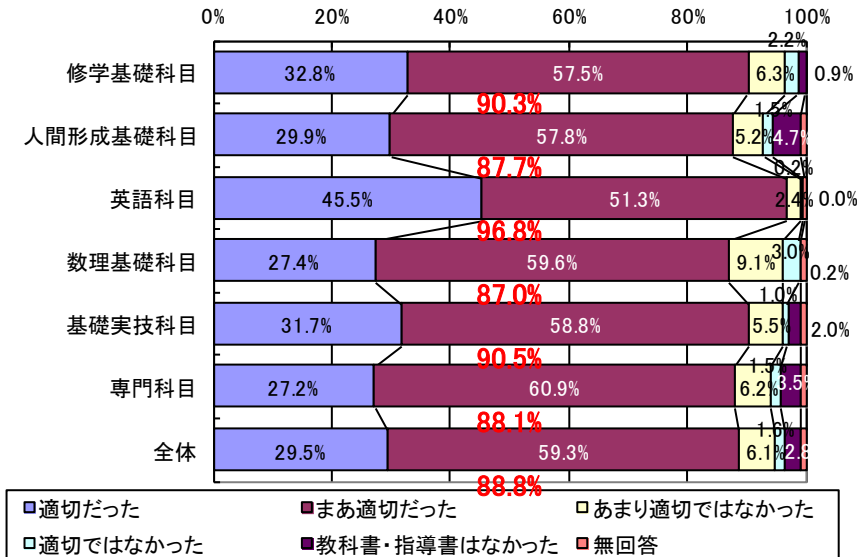
- 「D:予習・復習、課外学習活動」で「1時間程度」までの合計で比較すると、「人間形成基礎科目」(53.8%)と「修学基礎科目」(56.2%)の低さが目立っており、他の科目区分はいずれも7割を超えていた。最も多かったのは「基礎実技科目」の73.7%であり、「専門科目」が72.9%で続いていたが、「3時間以上」「2～3時間」は「専門科目」が最も多く、しっかりと予習・復習、課外学習活動の時間を取っていると言える。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」は全体的に肯定的な意見が多く、目立って低い科目区分は見られなかった。その中で最も肯定的な意見が多かったのは「英語科目」の96.8%であった。「適切だった」だけを見ても「英語科目」の45.5%は目立っており、非常に高い評価となっていた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」で肯定的な意見が9割に満たなかったのは「数理基礎科目」の89.8%だけであり、全体的に高い評価となっていた。そして、最も評価が高かったのは「英語科目」の96.8%であり、「十分役立った」だけを見ると41.8%と、他とは差ができていた。

■D: 予習・復習、課外学習活動



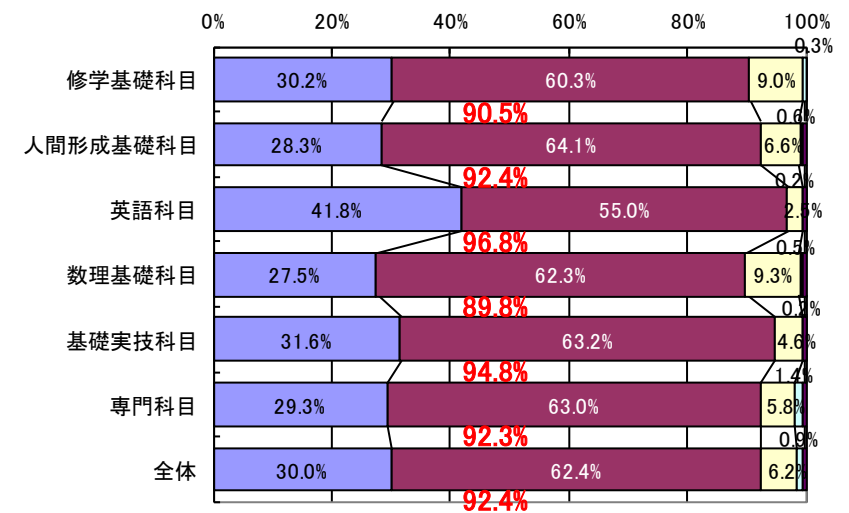
■3時間以上 ■2～3時間 □1～2時間 □1時間程度 ■30分程度 ■学習は特にしなかった □無回答

■E: 教科書・指導書の適切さ



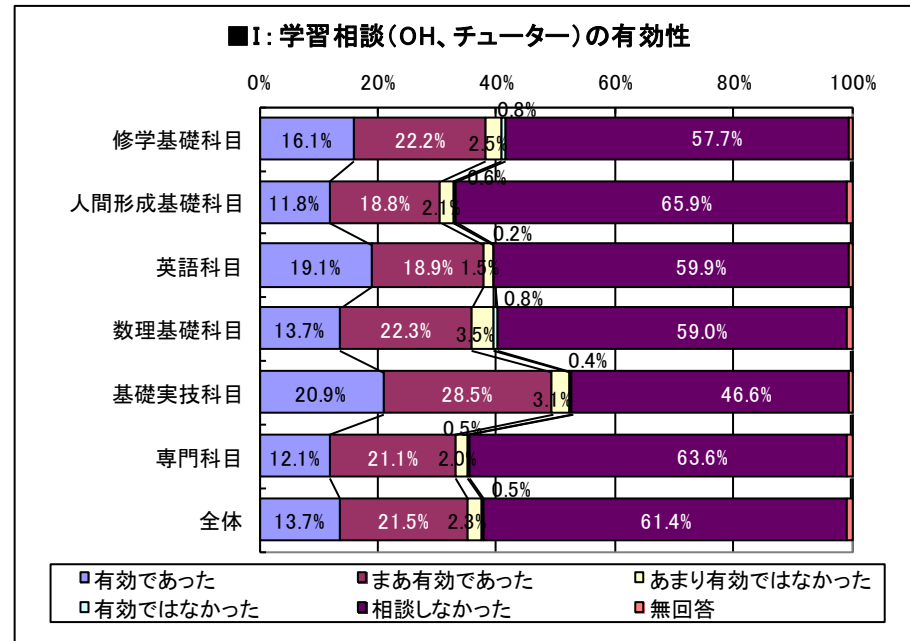
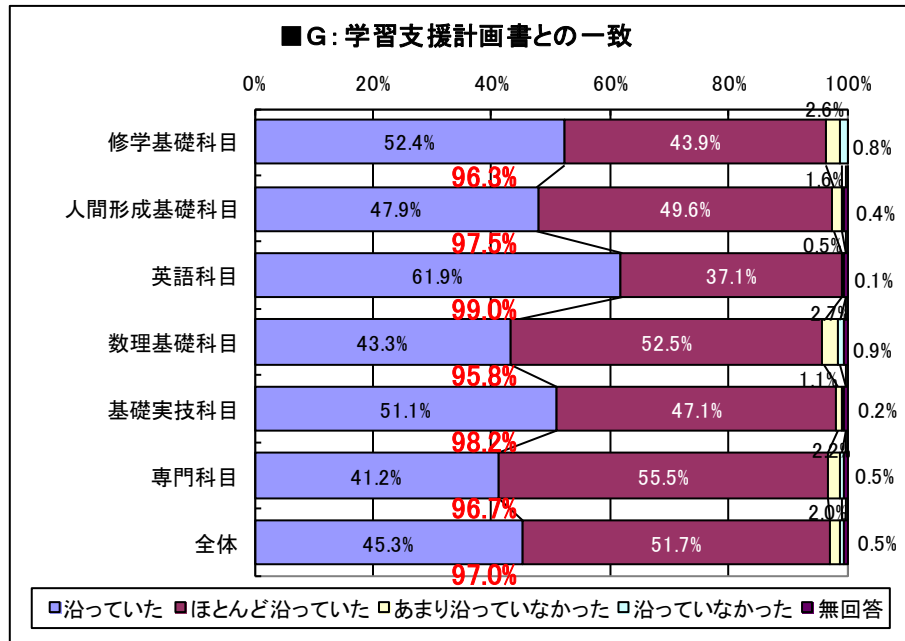
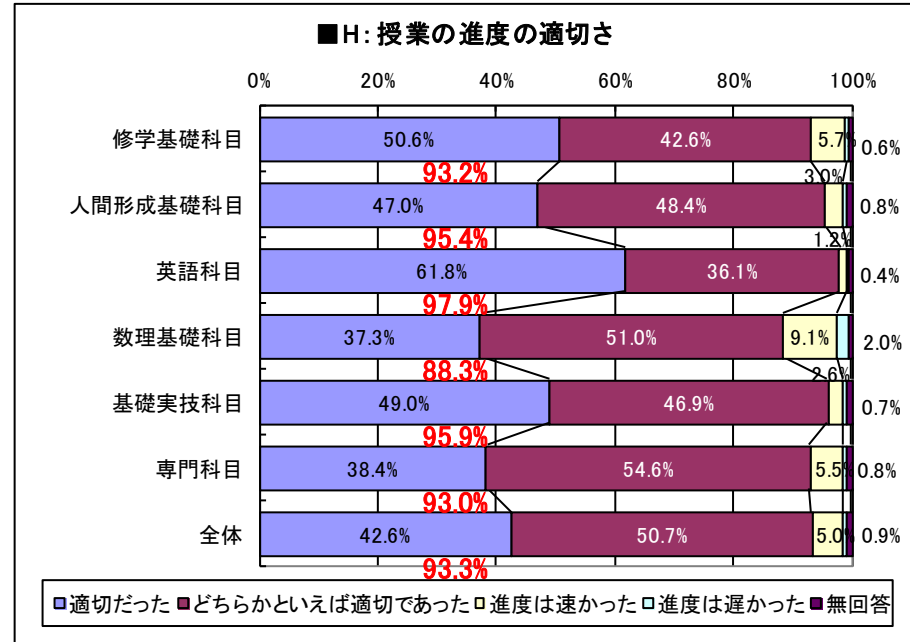
■適切だった ■まあ適切だった □あまり適切ではなかった  
 □適切ではなかった ■教科書・指導書はなかった □無回答

■F: 課題・レポートの適切さ

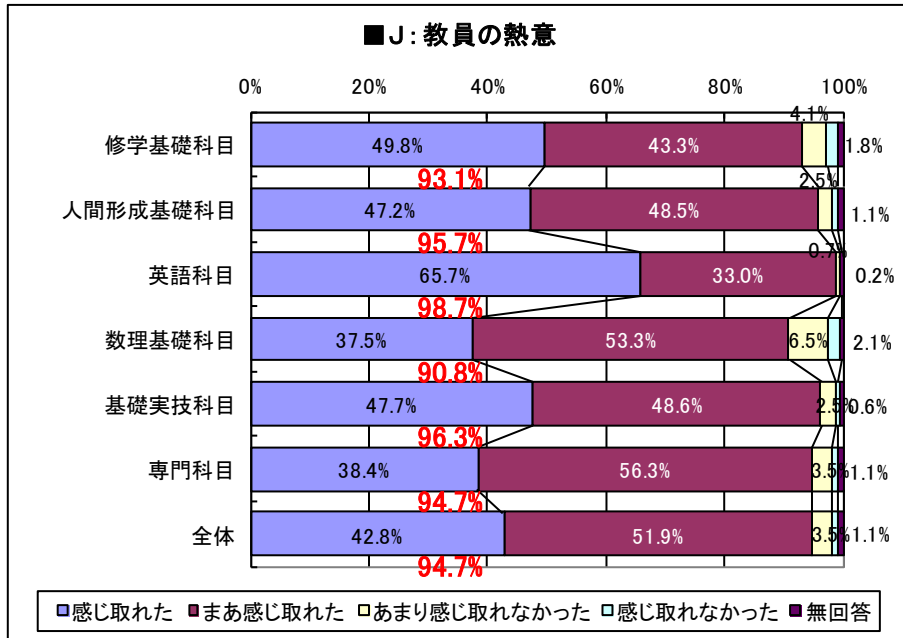
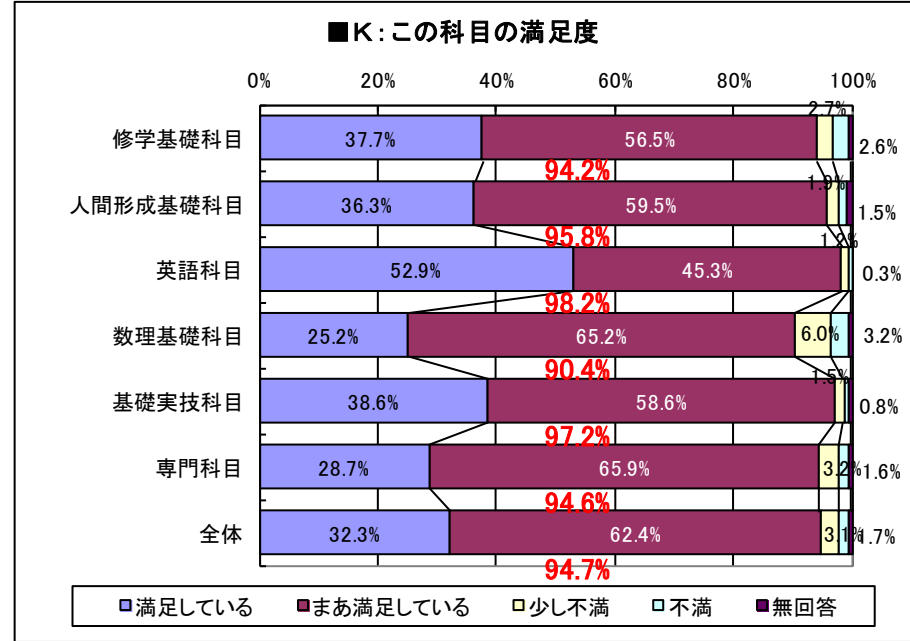


■十分役立った ■役立った □あまり役立たなかった □課題またはレポート等はなかった ■無回答

- 「G:学習支援計画書との一致」は全体的に高い評価となっており、全ての科目区分で肯定的な意見の合計が95.0%を超えていた。最も高かったのは「英語科目」の99.0%であり、「沿っていた」が61.9%を占めていた。
- 「H:授業の進度の適切さ」もほとんどの科目区分で肯定的な意見が9割を超えており、高い評価となっていた。唯一、9割に満たなかったのは「数理基礎科目」の88.3%であり、これも決して低い評価では無かった。そして、最も評価が高かったのは「英語科目」の97.9%であり、「適切だった」が61.8%で、非常に高い評価となっていた。
- 「I:学習相談の有効性」を「相談しなかった」の割合で比較したところ、「基礎実技科目」が46.6%が目立っており、「基礎実技科目」では学習相談をよく利用している様子が見えてきた。そして、利用者の内容評価を見ると、ほとんどの科目区分で高い評価となっており、内容的には満足しているようであった。



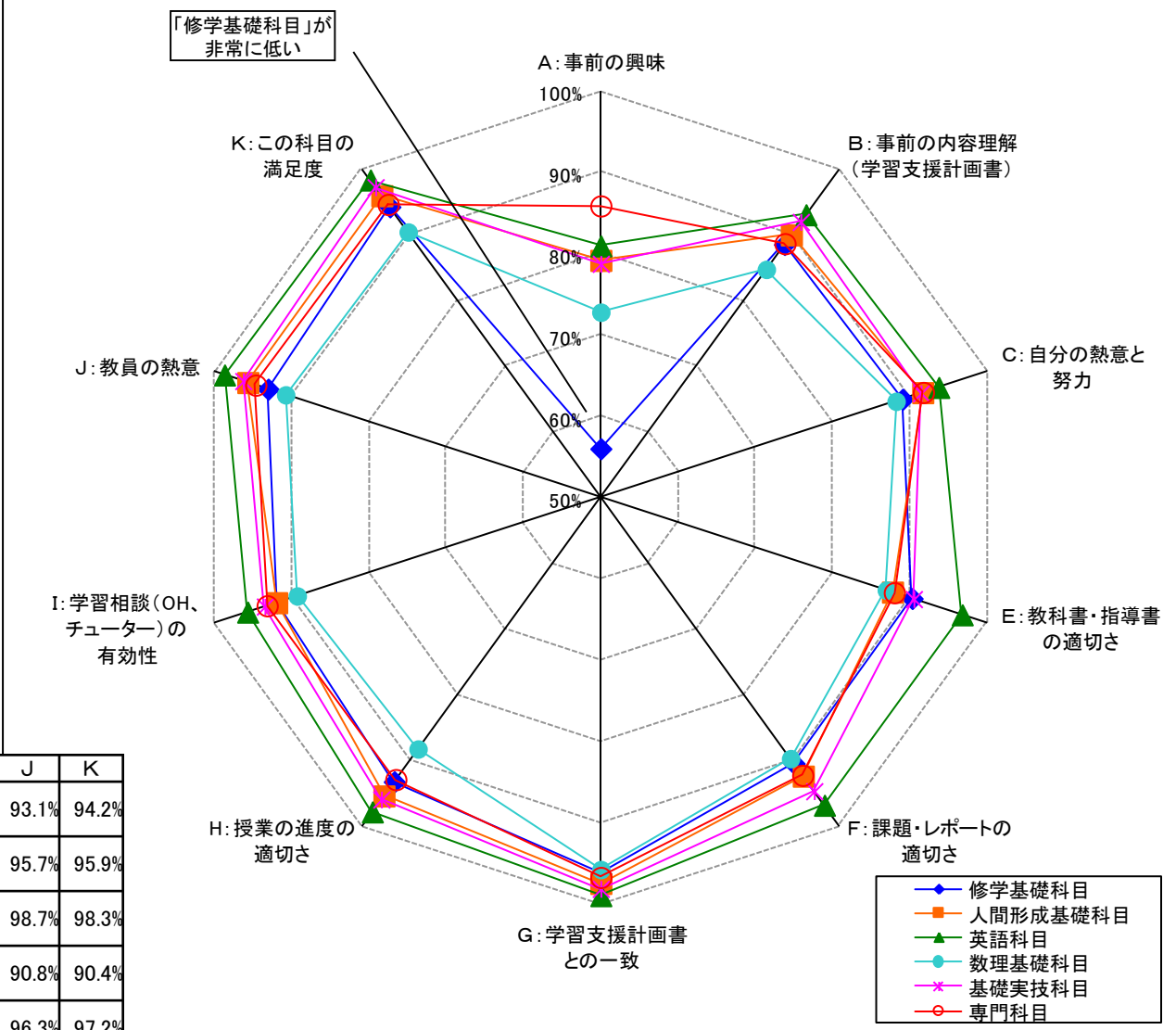
- 「J:教員の熱意」は全ての科目区分で肯定的な意見が9割以上を占めており、非常に高い評価となっていた。最も高かったのは「英語科目」の98.7%であり、「感じ取れた」が65.7%と非常に高く、教員の熱意がしっかりと伝わっているようであった。そして、最も低かった「数理基礎科目」でも肯定的な意見が90.8%となっており、決して低い評価ではなかった。
- 「K:この科目の満足度」も全ての科目区分で肯定的な意見が9割を超えており、非常に高い満足度になっていた。最も満足度が高かったのは「英語科目」の98.2%であり、ほとんどの学生が満足と答えていた。特に「満足している」が52.9%という点も特徴的であった。そして、最も満足度が低かったのは「数理基礎科目」の90.4%であり、これも高い満足度と言えるものであった。



# <5-2> 肯定的な意見の科目区分別比較

- 肯定的な意見の割合を、科目区分別にレーダーチャートで比較した。
- 全体を見て目に付いたのは「A:事前の興味」の科目区分による差の大きさであり、特に「修学基礎科目」の低さが目立っていた。
- 科目区分で見ると、「英語科目」がほとんどの項目で最も肯定的な意見が多くなっており、特に「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」の評価が高かった。
- 全体的に低めだったのは「数理基礎科目」であり、主要な指標である「K:この科目の満足度」の低さも目立っていた。ただし、9割以上は満足と答えており、大きな問題は無いと思われる。

■ 科目区分別比較レーダーチャート



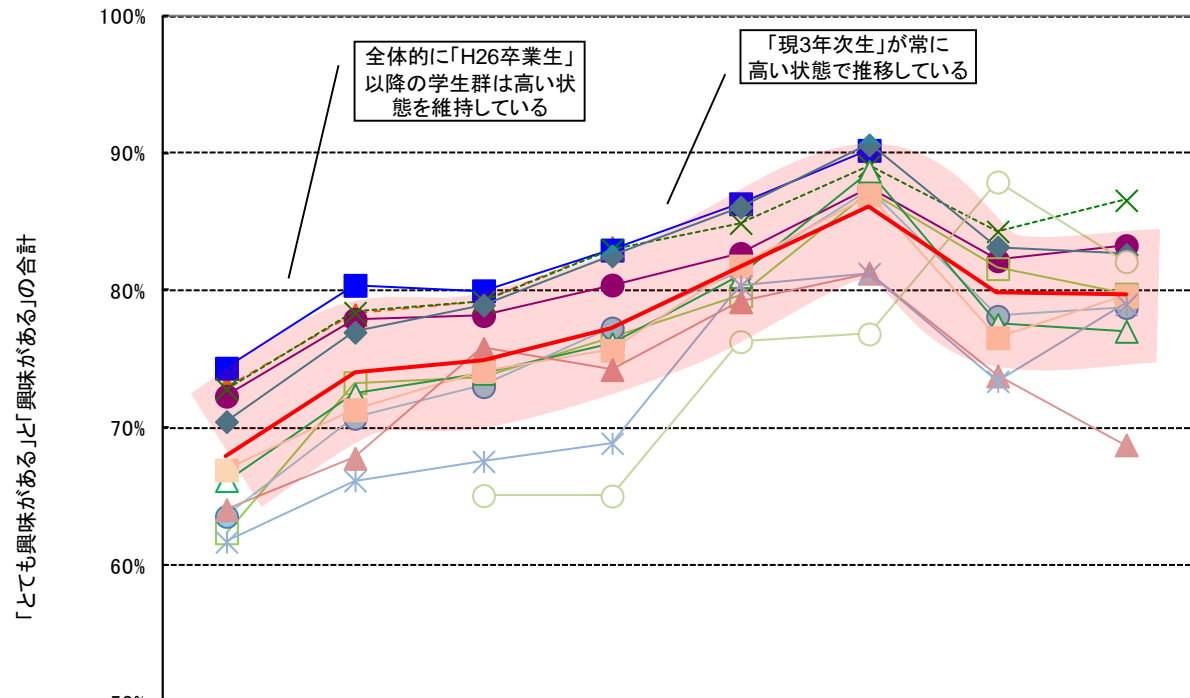
■ 科目の評価比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
修学基礎科目	56.0%	88.5%	89.1%	90.3%	90.5%	96.3%	93.3%	92.0%	93.1%	94.2%
人間形成基礎科目	79.2%	89.9%	91.7%	87.8%	92.4%	97.5%	95.4%	92.0%	95.7%	95.9%
英語科目	80.9%	93.0%	93.8%	96.8%	96.8%	99.0%	97.9%	95.7%	98.7%	98.3%
数理基礎科目	72.8%	84.7%	88.2%	87.0%	89.7%	95.8%	88.3%	89.3%	90.8%	90.4%
基礎実技科目	78.7%	91.9%	91.5%	90.5%	94.7%	98.2%	96.0%	93.5%	96.3%	97.2%
専門科目	85.9%	88.6%	91.8%	88.0%	92.3%	96.8%	92.9%	93.2%	94.7%	94.5%

## <6> 同一学生群の分析

- 同一学生群は学年が上がるにつれて、どのような意識変化をしているのかを確認した。
- 学期制度は「H21卒業生」の段階で3学期制から2学期制に変わっているため、「H21卒業生」以前の学生群は「秋学期」を「後期」として集計し、「冬学期」のデータは除外している。
- 「全体平均」の変化を見ると、「1年次-前期」から「3年次-後期」にかけて継続的に肯定的な意見が増加し、授業に対する興味が増している傾向が見られた。「全体平均」では68.0%から86.1%への変化であり、18.1ポイントの増加であった。その後、「4年次-前期」にかけてやや低下し、横這いとなって卒業に至っていた。
- 学生群としては「H26卒業生」以降の学生群（「H26卒業生」「H27卒業生」「現4年次生」「現3年次生」「現2年次生」）が高い状態を維持している様子が見られた。特に「現3年次生」は「1年次-前期」から「2年次-前期」が高く、その後も授業に強い興味を持ち続けているようであった。
- 一方、調査開始直後の「H19卒業生」「H20卒業生」「H21卒業生」の学生群は4年間を通して授業に対する興味の低さが目立っていた。そして、「H22卒業生」から「H25卒業生」は、「全体平均」に近くなっており、徐々に事前の興味が強くなってきている様子が見えてきた。

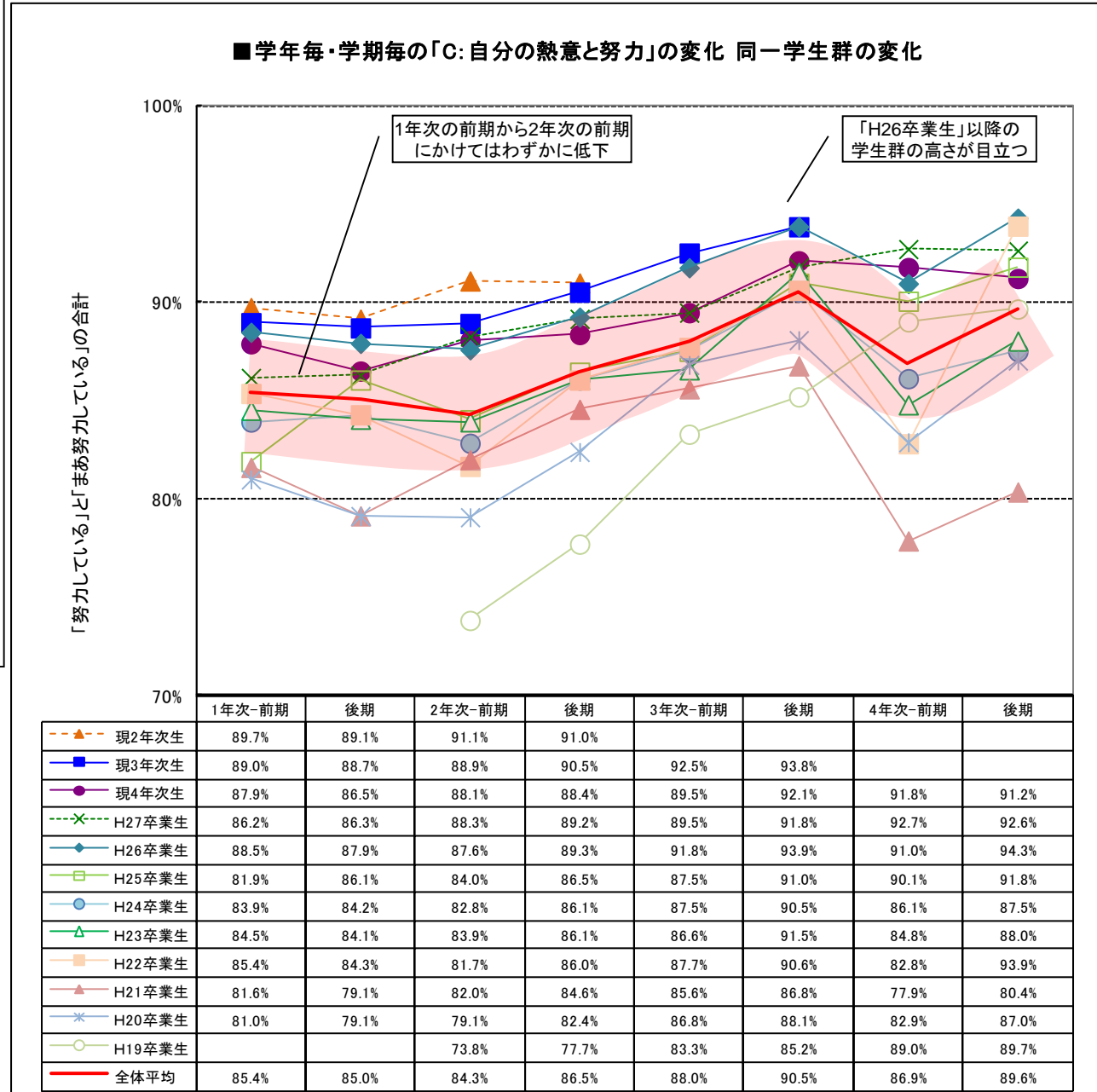
■ 学年毎・学期毎の「A: 事前の興味」の変化 同一学生群の変化



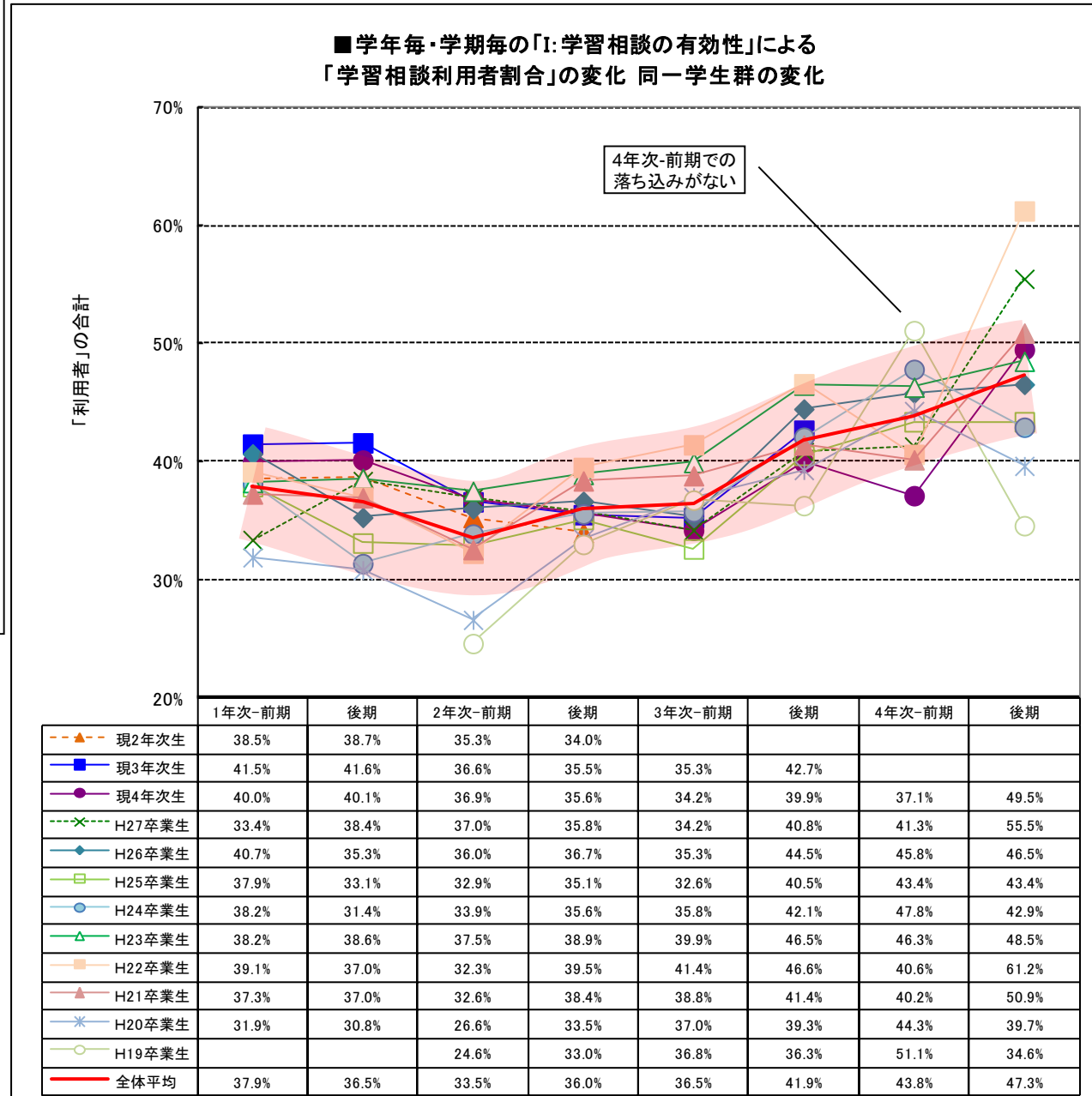
	1年次-前期	後期	2年次-前期	後期	3年次-前期	後期	4年次-前期	後期
---▲--- 現2年次生	73.0%	78.2%	79.2%	83.1%				
---■--- 現3年次生	74.3%	80.4%	80.0%	83.0%	86.3%	90.2%		
---●--- 現4年次生	72.3%	77.9%	78.2%	80.4%	82.7%	87.5%	82.2%	83.3%
---×--- H27卒業生	72.8%	78.4%	79.2%	83.0%	84.9%	89.1%	84.3%	86.6%
---◆--- H26卒業生	70.4%	77.0%	78.9%	82.5%	86.1%	90.6%	83.2%	82.6%
---□--- H25卒業生	62.3%	73.3%	73.7%	76.6%	79.6%	87.1%	81.6%	79.7%
---○--- H24卒業生	63.5%	70.7%	73.0%	77.3%	81.3%	87.3%	78.1%	78.8%
---△--- H23卒業生	66.2%	72.4%	74.0%	76.1%	81.0%	88.7%	77.5%	77.0%
---◇--- H22卒業生	66.9%	71.3%	74.2%	75.6%	81.8%	87.0%	76.6%	79.6%
---▲--- H21卒業生	64.0%	67.8%	75.8%	74.2%	79.2%	81.3%	73.8%	68.8%
---*--- H20卒業生	61.7%	66.1%	67.5%	68.9%	80.4%	81.2%	73.4%	79.0%
---○--- H19卒業生			65.1%	65.0%	76.3%	76.8%	87.9%	82.1%
---●--- 全体平均	68.0%	74.0%	74.9%	77.1%	81.8%	86.1%	79.9%	79.7%



- 「C:自分の熱意と努力」の「全体平均」の変化を見ると、「1年次-前期」から「2年次-前期」にかけてわずかに低下し、その後は増加傾向に転じ、「3年次-後期」で熱意と努力が最も高くなっている。その後、「4年次-前期」にかけて低下し、卒業を控えた「4年次-後期」に再び上昇して卒業に至っていた。
- 学生群別の特徴を見ると、「H26卒業生」以降の学生群が高い状態にあり、前項で見た「A:事前の興味」と同じ傾向であった。特に「現2年次生」と「現3年次生」は低学年から高い状態にあった。
- 「H27卒業生」は「4年次生-前期」の低下がなく、4年間を通して熱意と努力が増していくという傾向が見られた。
- また、前項で見たように「H19卒業生」から「H21卒業生」の低さから、「H22卒業生」から「H25卒業生」での向上、そして、「H26卒業生」以降に高くなる様子は同じであった。

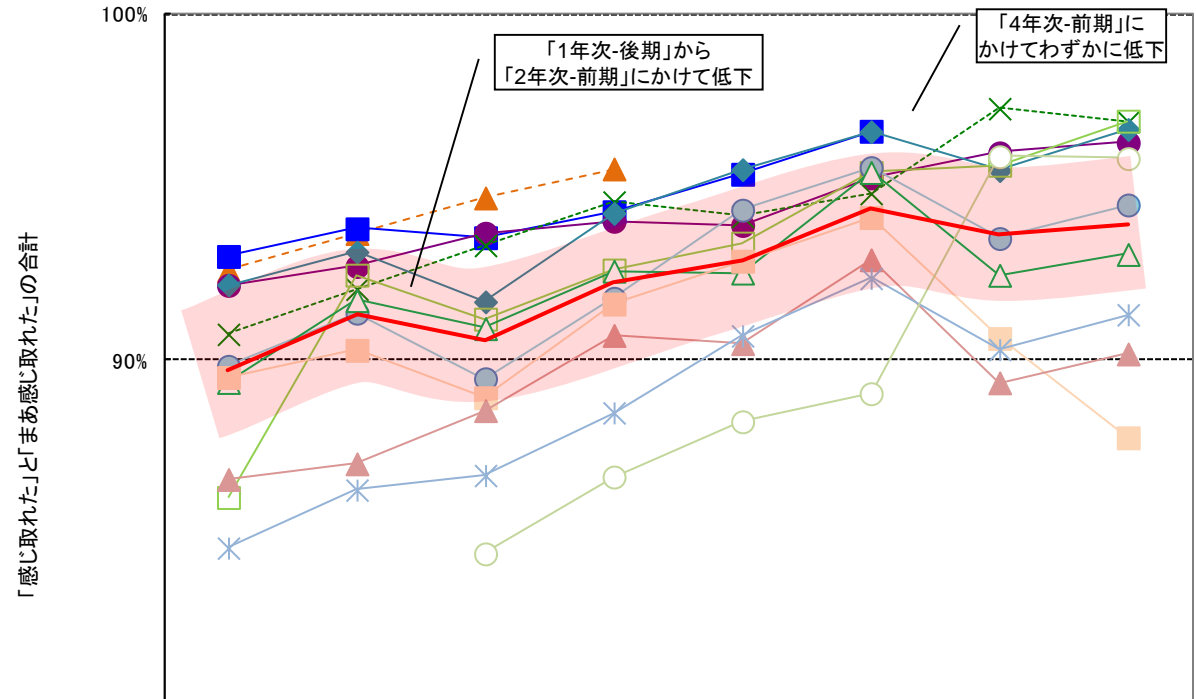


- 「I:学習相談の有効性」では、内容の評価ではなく、「学習相談利用者割合」の変化を確認した。
- 「全体平均」を見ると、「1年次-前期」から「2年次-前期」にかけて肯定的な回答がわずかに低下し、その後は「4年次-後期」にかけて増加が継続する傾向が見られ、他の指標に見られるような「4年次-前期」での低下が見られず、卒業までしっかりと学習相談を利用しているようであった。また、変化も穏やかであり、学年による利用率に差がなかった。
- 学生群の特徴を見ると、他の指標よりも学生群によるバラツキが少ない点も特徴的であった。他の指標では「H26卒業生」以降で肯定的な意見が増加していたが、「学習相談利用者割合」では、そのような特徴は見られず、調査開始当初に関しても、現在との差は見られなかった。



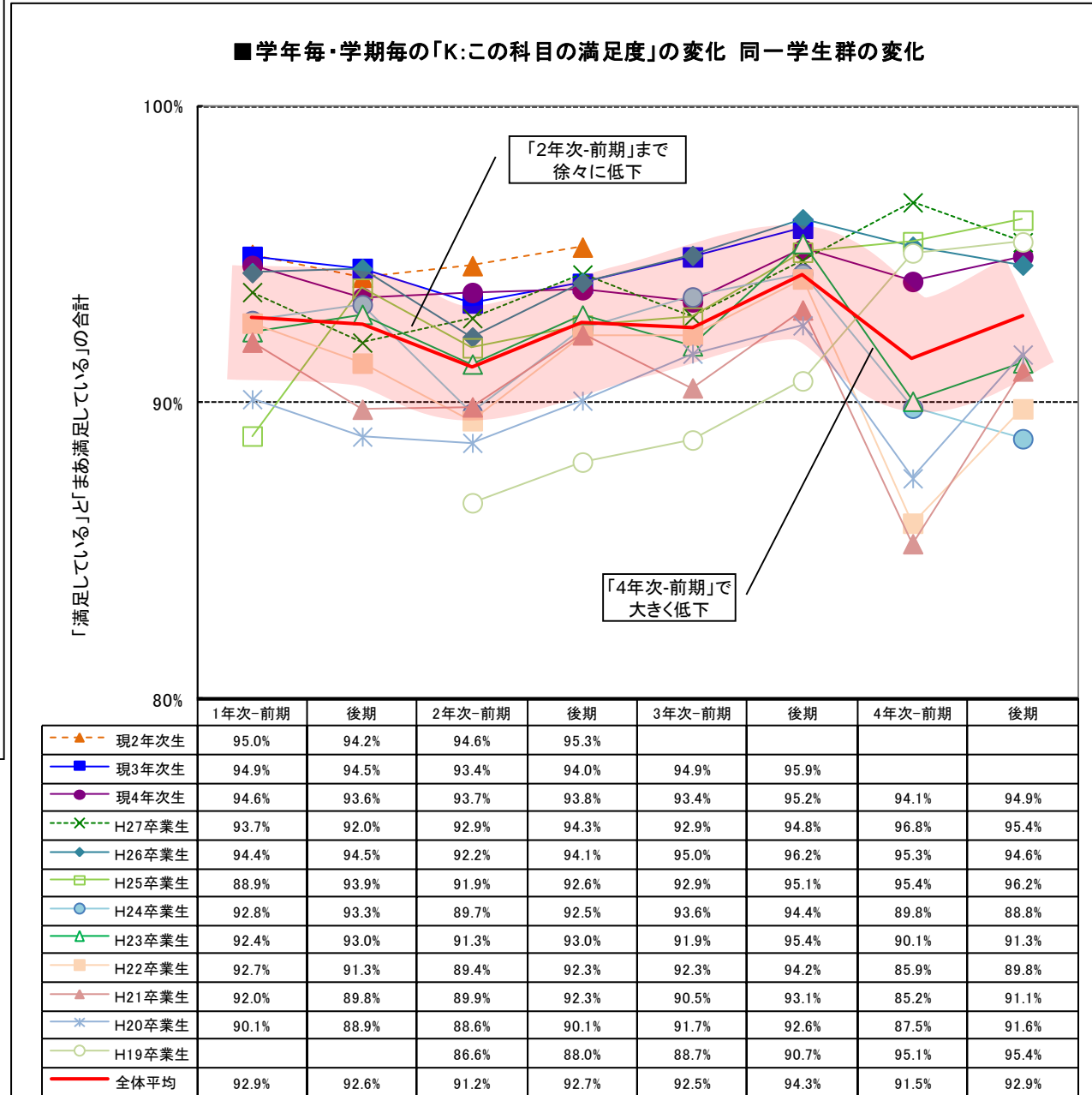
- 「J:教員の熱意」の「全体平均」を見ると、他の主要な指標と同様に「2年次-前期」と「4年次-前期」に低下する傾向が見られたが、低下の幅はわずかなものであり、4年間を通してほぼ9割以上の学生が教員の熱意を感じていると答えていた。
- 学生群としては、他の主な指標と同様に「H26卒業生」以降で肯定的な意見が多く、「現2年次生」の「2年次-前期」から「2年次-後期」の高さが目立っていた。また、「H27卒業生」は「4年次-前期」に97.3%が肯定的な意見であり、これが全体の最高であった。
- 肯定的な意見が少なかった学生群も他と同様に「H19卒業生」から「H21卒業生」であり、「H22卒業生」から「H25卒業生」がやや高くなっている点も同じであった。

■ 学年毎・学期毎の「J:教員の熱意」の変化 同一学生群の変化



	1年次-前期	後期	2年次-前期	後期	3年次-前期	後期	4年次-前期	後期
---▲--- 現2年次生	92.6%	93.7%	94.7%	95.5%				
---■--- 現3年次生	93.0%	93.8%	93.5%	94.3%	95.4%	96.6%		
---●--- 現4年次生	92.2%	92.7%	93.7%	94.0%	93.9%	95.3%	96.0%	96.3%
---×--- H27卒業生	90.7%	92.1%	93.3%	94.6%	94.1%	94.8%	97.3%	96.9%
---◆--- H26卒業生	92.2%	93.1%	91.7%	94.2%	95.5%	96.6%	95.5%	96.7%
---□--- H25卒業生	86.0%	92.5%	91.2%	92.6%	93.4%	95.4%	95.6%	96.9%
---○--- H24卒業生	89.8%	91.4%	89.5%	91.8%	94.3%	95.6%	93.5%	94.5%
---△--- H23卒業生	89.4%	91.7%	90.9%	92.6%	92.5%	95.4%	92.5%	93.1%
---◇--- H22卒業生	89.5%	90.3%	88.9%	91.6%	92.9%	94.1%	90.6%	87.8%
---▲--- H21卒業生	86.6%	87.0%	88.5%	90.7%	90.5%	92.9%	89.3%	90.2%
---*--- H20卒業生	84.6%	86.2%	86.7%	88.5%	90.7%	92.4%	90.3%	91.3%
---○--- H19卒業生			84.4%	86.6%	88.2%	89.0%	95.9%	95.8%
--- 全体平均	89.7%	91.3%	90.6%	92.3%	92.9%	94.4%	93.6%	93.9%

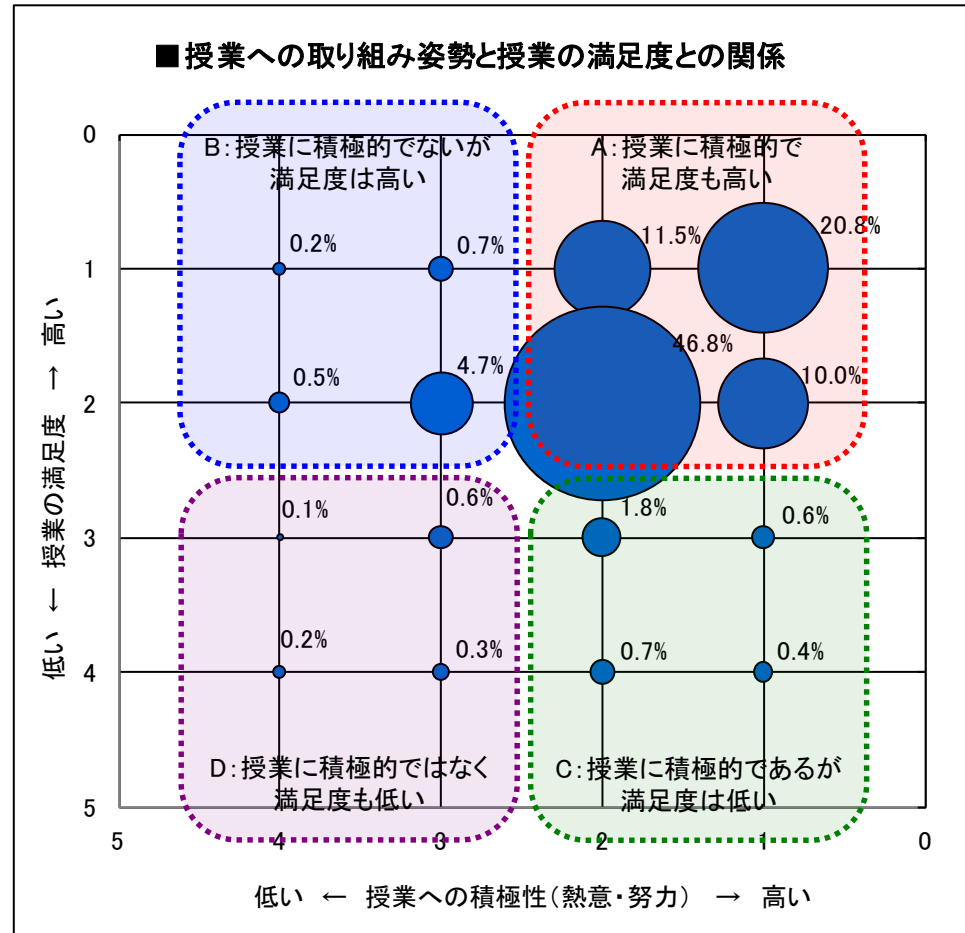
- 「K:この科目の満足度」の「全体平均」の変化に関しても、他の主要な指標と同様に「2年次-前期」と「4年次-前期」で低下するものの、常に9割以上が満足という回答になっており、4年間を通じて満足度は高いと言える。また、4年間の変化は非常に小さく、最も高い「3年次-後期」の94.3%と、最も低い「2年次-前期」の91.2%との差は3.1ポイントであった。
- 学生群で見ると、他の主要な指標と同様に「H26卒業生」以降の満足度が高い傾向が見られ、「3年次-後期」から「4年次-後期」にかけては「H25卒業生」の満足度も高かった。また、「現2年次生」は「2年次-前期」での低下が見られず、非常に満足度が高い状態で推移している点が特徴的であった。
- 他の主要な指標では、「H19卒業生」から「H21卒業生」で肯定的な意見が目立って低いものも見られたが、満足度に関しては、それほどでもなかった。ただし、「4年次-前期」の低さは目立っており、ここ数年の卒業生と在學生は「4年次」でも落ち込まない傾向になってきていると言える。



## <7> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析

# <7-1> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度との関係

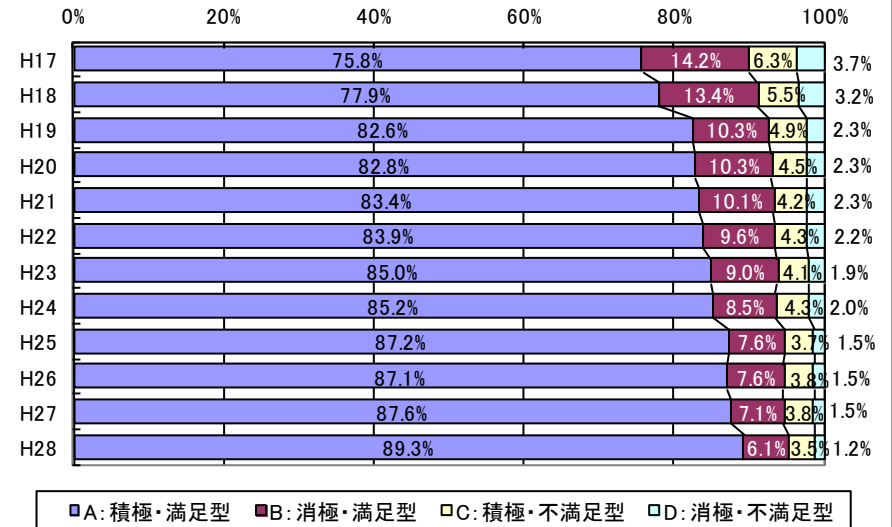
- 「C:自分の熱意と努力」(積極性)と「K:この科目の満足度」の2つの指標を掛け合わせ、4つのグループに分けて比較を行った。
- 「A:授業に積極的で満足度も高い」は89.3%と最も多く、9割の学生は授業に積極的に取り組み、満足度も高いと言える。この中でも「満足度」「積極性」が共に「高い」という学生は20.8%であった。
- 「B:授業に積極的でないが満足度は高い」は6.1%であった。このグループは授業に積極的ではないが満足度は高いという学生群であり、教員の指導で引っ張られている学生などが含まれるのではないかとと思われる。
- 「C:授業に積極的であるが満足度は低い」は3.5%であった。このグループは授業に積極的に取り組んでいるにもかかわらず、満足度が低いという学生群であり、積極性が失われないようにしっかりとフォローする必要があるのではないかとと思われる。
- 「D:授業に積極的ではなく満足度も低い」1.2%であった。このグループは割合は少ないものの、大学としては最もフォローが必要な学生群であり、授業を受ける心がけなど、初期段階から指導が必要だと思われる。



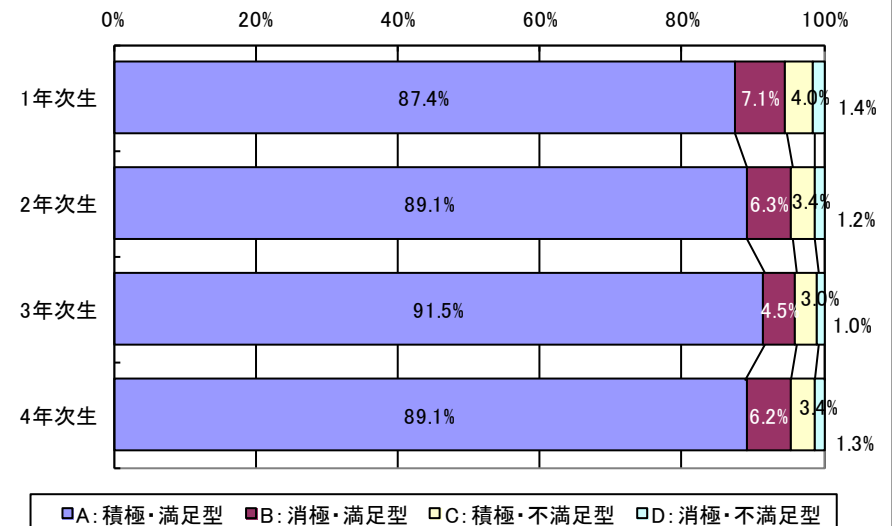
領域	割合	取り組み姿勢	略号
A	89.3%	授業に積極的で満足度も高い。 良い状態にある学生群であり、このグループが増えることが望ましい。	積極・満足型
B	6.1%	授業に積極的でないが満足度は高い。 教員の指導によって引っばられているものと思われる。 積極性を持ってもらいたいが、無理強いをする必要まではないと思われる。	消極・満足型
C	3.5%	授業に積極的であるが満足度は低い。 頑張っているのに満足が得られないグループであり、注意が必要。 「期待はずれ」「ついていけない」といった理由が考えられる。	積極・不満足型
D	1.2%	授業に積極的ではなく満足度も低い。 最も大きな課題であり、学生自身の自主性もないものと思われる。	消極・不満足型

- 前項で見た4グループの割合の経年変化を見た。
- 「A:積極・満足型」は前回は1.7ポイント上回り、H25からH26にかけてわずかに低下したものの、基本的には調査開始から増加傾向が続いており、今回は過去最高となった。
- 「B:消極・満足型」は前回は1.0ポイント下回ったが、その他の2つのグループは前回とほとんど変わらなかった。
- 学年別に「A:積極・満足型」の割合を比較すると、「1年次生」が87.4%、「2年次生」が89.1%、「3年次生」が91.5%であり、「3年次生」までは、学年が上がるほど増加する傾向が見られた。そして、「4年次生」ではわずかに低下していた。
- 「C:積極・不満足型」と「D:消極・不満足型」は学年による変化が非常に小さかったが、「B:消極・満足型」は「1年次生」から「3年次生」にかけて減少し、「4年次生」で増加しており、「A:積極・満足型」と逆の変化となっていた。

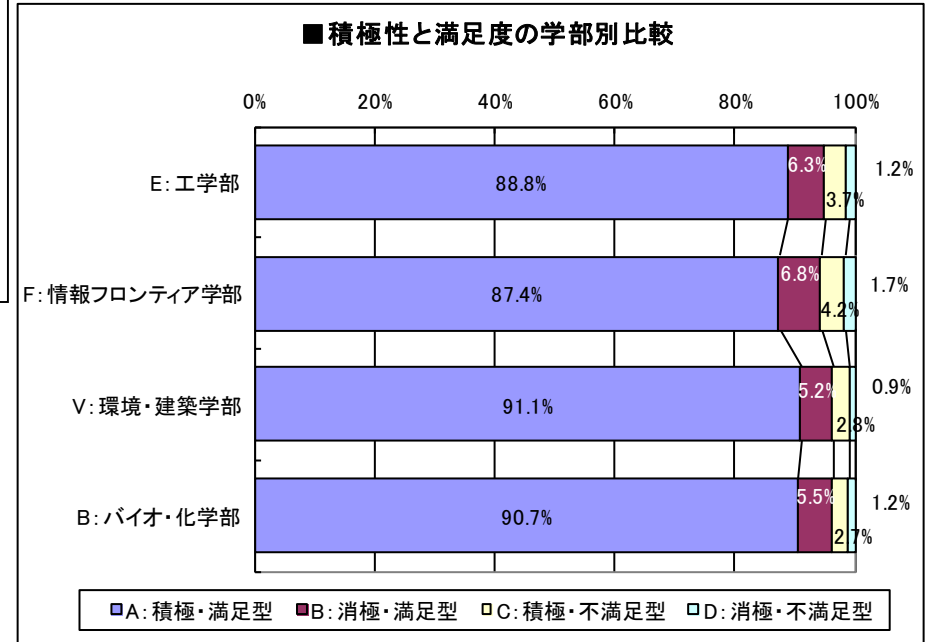
### ■ 積極性と満足度の経年変化



### ■ 積極性と満足度の学年別比較

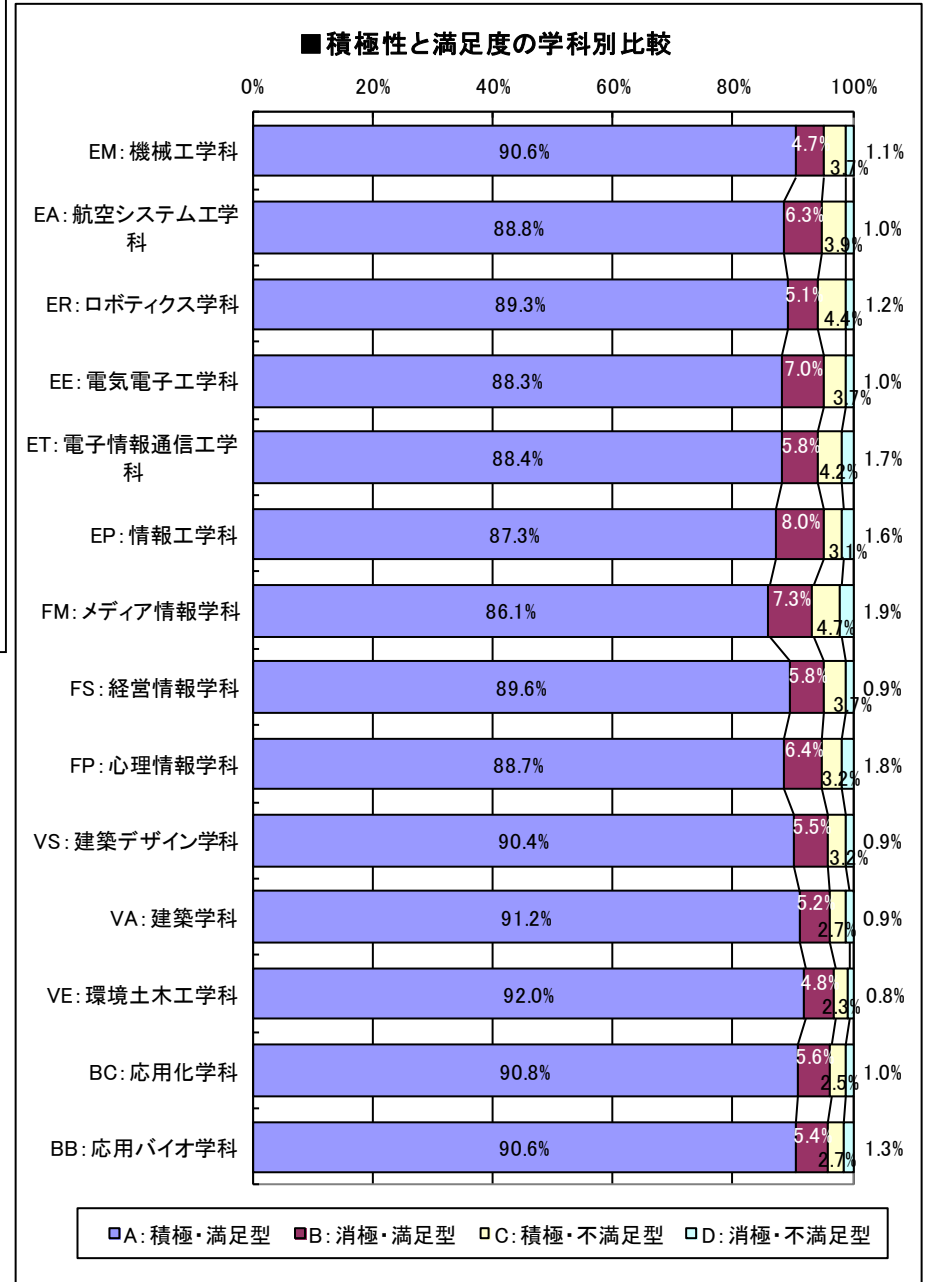


- 学部別に「A:積極・満足型」の割合を比較すると、「V:環境・建築学部」の91.1%が最も多く、次いで、「B:バイオ・化学部」が90.7%、「E:工学部」が88.8%、「F:情報フロンティア学部」が87.4%であり、「V:環境・建築学部」と「F:情報フロンティア学部」との差は3.7ポイントとあまり大きくなかった。
- 「B:消極・満足型」と「C:積極・不満足型」の割合は、「F:情報フロンティア学部」がやや多めであったが、差はわずかであり、ほぼ横並びと言える。





- 学科別に「A:積極・満足型」の割合を比較すると、「VE:環境土木工学科」が92.0%で最も多く、次いで、「VA:建築学科」が91.2%、「BC:応用化学科」が90.8%、「EM:機械工学科」と「BB:応用バイオ学科」が90.6%、「VS:建築デザイン学科」が90.4%と続いており、ここまでの6学科が9割を超えていた。また、上位の学科を見ると、「V:環境・建築学部」と「B:バイオ・化学部」が多く、前項の学部別比較と一致する内容になっていた。
- 一方、「A:積極・満足型」の割合が最も少なかったのは、「FM:メディア情報学科」の86.1%であった。そして、「EP:情報工学科」が87.3%、「EE:電気電子工学科」が88.3%となっていたが、いずれも9割近くであり、これらの学科で充実していない学生が多かったとは言えない数値であった。
- 他の項目を見ると、「D:消極・不満足型」は学科による差がほとんど見られず、「B:消極・満足型」と「C:積極・不満足型」は「FM:メディア情報学科」や「EP:情報工学科」など、「A:積極・満足型」が少ない学科でわずかに多くなっており、特に目立った特徴は見られなかった。



## <8> 全体のまとめ

## <8-1>全体の分析で分かったこと

今回の集計、分析から分かったことは下記の通り。

### 【全体傾向で確認できた事】

授業の満足度は94.8%、教員に熱意を感じるという意見も94.8%と非常に高かった。そして、授業への興味は8割、自分の熱意と努力は9割以上が肯定的な意見であり、内容にも問題は見られなかった。

- ◆ 受講の前段階の項目を見ると、「事前の興味」では81.5%、「事前の内容理解」では89.1%、「自分の熱意と努力」では91.4%が肯定的な意見であり、いずれも非常に高く、良い状態で受講に向かっていると言える。
- ◆ 授業の内容に関しては、「教科書・指導書の適切さ」で88.4%、「課題・レポートの適切さ」で92.5%が肯定的な意見であり、評価は高かった。また、「学習支援計画書との一致」では97.1%、「授業の進度の適切さ」では93.5%、「学習相談の有効性」では92.9%が肯定的な意見であった。
- ◆ 最終的には94.8%が満足と答えていた。同じく、94.8%は教員の熱意を感じており、評価としては非常に高いと言える。

### 【経年変化で確認できた事】

全ての指標が前回は上回って過去最高となった。  
そして、学習時間は長くなっており、  
「学習しなかった」という学生は減少していた。

- ◆ わずかな差ではあるが、全ての指標が過去最高のスコアとなった。
- ◆ 「科目の満足度」は前回も過去最高となったが、今回は前回は0.6ポイント上回った。また、「教員の熱意」は前回は1.0ポイント上回った。
- ◆ 項目別では「教科書・指導書の適切さ」の評価が1.7ポイント向上して最高となり、「自分の熱意と努力」と「課題・レポートの適切さ」が1.4ポイントの向上であった。
- ◆ 「予習・復習、課外学習活動」を見ると、学習時間は増加していた。そして、「30分程度」という短時間と「学習は特にしなかった」の2項目は減少していた。

### 【学年別比較で確認できた事】

満足度をはじめとして、「3年次生」の授業の評価が高めであったが、学年間の差は非常に小さかった。  
予習・復習、課外学習活動も「3年次生」の時間が長かった。

- ◆ 「満足度」をはじめとして、多くの項目で「3年次生」の肯定的な意見が多かったが、「教科書・指導書の適切さ」は「2年次生」の方が高く、「学習支援計画書との一致」「教員の熱意」は「4年次生」の方が高かった。
- ◆ 上記のように「3年次生」が高めではあったが、学年間の差は非常に小さかった。ただし、「事前の興味」だけは学年による差が大きく、「3年次生」の高さと「1年次生」の低さが目立っていた。
- ◆ 「予習・復習、課外学習活動」では、「1年次生」から「3年次生」までは、高学年の方がしっかりと学習している様子が見られ、「4年次生」でわずかに減少していた。

### 【学部別・学科別比較で確認できた事】

「情報フロンティア学部」が全体的に低く、特に「メディア情報学科」が低かった。また、「バイオ・化学部」では「応用化学科」が低かった。  
「工学部」と「環境・建築学部」では学科の差が非常に小さかった。

- ◆ 学部間の差は大きくないが、全項目で「情報フロンティア学部」が最も低く、特に「事前の興味」「教科書・指導書の適切さ」の低さが目立っていた。そして、「予習・復習、課外学習活動」は「工学部」が最も長かった。
- ◆ 「工学部」と「環境・建築学部」に属する学科では、学科間の差が非常に少なく、「満足度」では学科の差がほとんどなかった。
- ◆ 「情報フロンティア学部」では「メディア情報学科」が全体的に低めであったが、「経営情報学科」と「心理情報学科」の差は少なく、満足度はほとんど同じであった。
- ◆ 「バイオ・化学部」では、「応用化学科」が全体的にやや高めであった。

## 【科目区分別比較で確認できた事】

「修学基礎科目」に対する興味の低さと、「専門科目」に対する興味の強さが見られ、実際に「専門科目」の勉強時間が長かった。そして、満足度をはじめとして「英語科目」で肯定的な意見が多かった。

- ◆ 「事前の興味」は科目区分によって非常に大きな差があり、「修学基礎科目」に対する興味が非常に低く、「専門科目」に対する興味が強かった。
- ◆ 上記以外はあまり大きな差は見られなかったが、全体的に「英語科目」で肯定的な意見が多く、「満足度」「教員の熱意」でも最も高い評価であった。
- ◆ 全体的に低めであったのは「数理基礎科目」であったが、9割近くは満足と答えており、大きな問題は無いと思われる。
- ◆ 「予習・復習、課外学習活動」では「人間形成基礎科目」と「修学基礎科目」の時間が短めであり、「専門科目」に長い時間を割いていた。

## 【積極性と満足度の指標から確認できた事】

「積極・満足型」は89.3%であり、調査開始から増加傾向が続き、過去最高となった。そして、学年では「3年次生」、学部では「環境・建築学部」、学科では「環境土木工学科」が多かった。

- ◆ 「積極・満足型」が89.3%となり、前回は1.7ポイント上回って過去最高となり、調査開始から増加傾向が続いていた。中でも「満足度」「積極性」が共に「高い」という学生は20.8%であった。
- ◆ 「積極・満足型」は「1年次生」で87.4%、「2年次生」で89.1%となり、「3年次生」が91.5%と最も多く、「4年次生」で89.1%となっていた。
- ◆ 学部別に「積極・満足型」を比較すると、「環境・建築学部」が91.1%と最も多く、「情報フロンティア学部」が最も少なかった。そして、学科では「環境土木工学科」が最も高く、「建築学科」「応用化学科」と続いており、最も少なかったのは「メディア情報学科」の86.1%であった。

## 【同一学生群で確認できた事】

「H26卒業生」以降の学生群で充実度が高まっている傾向が見られた。また、最近の学生群では「4年次-前期」で「積極性」や「満足度」が低下しない学生群が見られるようになった。

- ◆ 同一学生群毎の変化を見ると、「事前の興味」「自分の熱意と努力」「教員の熱意」「満足度」では、「H26卒業生」以降の学生群（「H26卒業生」「H27卒業生」「現4年次生」「現3年次生」「現2年次生」）で肯定的な意見が高く、以前の学生群よりも充実している様子がうかがえた。ただし、「学習相談の有効性」は学生群による差が小さく、以前と評価は変わっていなかった。
- ◆ 「積極性」や「満足度」の全体平均を見ると、入学から「2年次-前期」までわずかに低下し、その後は「3年次-後期」まで充実感が増し、「4年次-前期」でわずかに低下する傾向が見られた。ただし、最近の学生群では「4年次-前期」での低下が少なかったり、低下しない学生群も見られる。

ここまでの分析から分かったことをまとめると下記のようになる。

- 授業の満足度は94.8%、教員に熱意を感じるという意見も94.8%と非常に高かった。そして、授業への興味は8割、自分の熱意と努力は9割以上が肯定的な意見であり、内容にも問題は見られなかった。
- 全ての指標が前回は上回って過去最高となった。そして、学習時間は長くなっており、「学習しなかった」という学生は減少していた。
- 満足度をはじめとして、「3年次生」が授業の評価が高めであったが、学年間の差は非常に小さかった。予習・復習、課外学習活動も「3年次生」の時間が長かった。
- 「情報フロンティア学部」が全体的に低く、特に「メディア情報学科」が低かった。また、「バイオ・化学部」では「応用化学科」が低かった。「工学部」と「環境・建築学部」では学科の差が非常に小さかった。
- 「修学基礎科目」に対する興味の低さと、「専門科目」に対する興味の強さが見られ、実際に「専門科目」の勉強時間が長かった。そして、満足度をはじめとして「英語科目」で肯定的な意見が多かった。
- 「H26卒業生」以降の学生群で充実度が高まっている傾向が見られた。また、最近の学生群では「4年次-前期」で「積極性」や「満足度」が低下しない学生群が見られるようになった。
- 「積極・満足型」は89.3%であり、調査開始から増加傾向が続き、過去最高となった。そして、学年では「3年次生」、学部では「環境・建築学部」、学科では「環境土木工学科」が多かった。



- ❖ 授業に満足しているという意見、教員の熱意を感じているという意見のいずれもが94.8%と大多数を占めていた。また、授業への興味は8割、自分の熱意と努力は9割以上が肯定的な意見であり、非常に良い状態で授業が行われていると言える。
- ❖ 今回は全ての指標が過去最高となり、学習時間も長くなっていた。同一学生群の変化を見ても、最近の学生ほど充実している様子が見られた。また、2年次生での中たるみや卒業直前の満足度低下も少なくなってきたおり、学生の変化がうかがえた。
- ❖ 「専門科目」に対して強い興味を持っており、学習時間もしっかりと確保している点が特徴的であった。このような興味を活用して学習意欲を盛り上げる方策なども有効であると思われる。
- ❖ 差はそれほど大きくないが、「情報フロンティア学部」が全体的に低く、特に「メディア情報学科」が低くなっていた。